

高岡町埋蔵文化財調査報告書第35集

# 八反田・川子地区墓地群 八反田遺跡

県営ふるさと農道緊急整備事業（小山田地区）に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書 6

2005. 3

宮崎県高岡町教育委員会

# 八反田・川子地区墓地群 八反田遺跡

県営ふるさと農道緊急整備事業（小山田地区）に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書 6

2005. 3

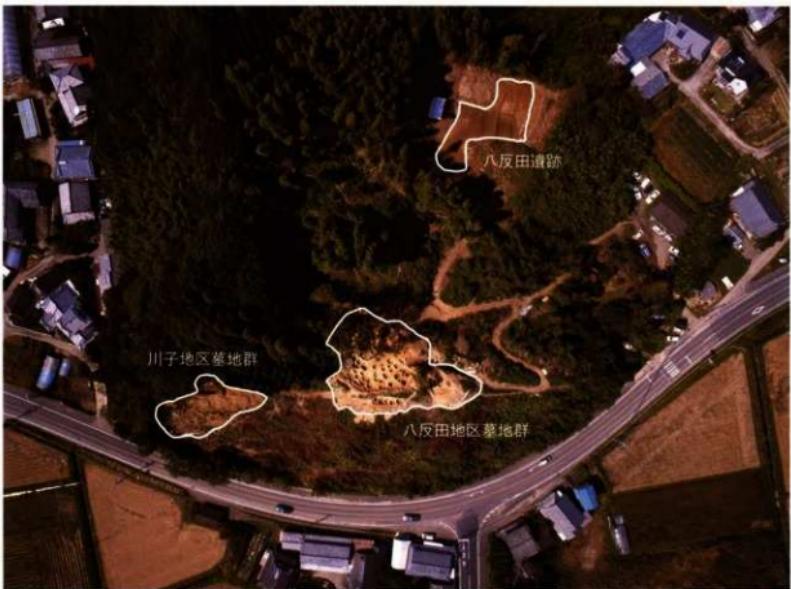
宮崎県高岡町教育委員会

## 献　　辞

本書を、17世紀後半から現在に至るまでのあいだに、この地域で生まれ生活し、亡くなられたすべての人々に捧げます。



巻頭カラー1 遺跡遠景（南東から）



巻頭カラー2 真上から見た遺跡



卷頭カラー3 八反田地区墓地群A区墓石配置状況



卷頭カラー4 八反田地区墓地群C区墓石配置状況



卷頭カラー 5 八反田地区墓地群墓石配置状況



卷頭カラー 6 八反田地区墓地群土壤完掘状況



卷頭カラー 7 川子地区墓地群表面精査状況



卷頭カラー 8 川子地区墓地群土壙完掘状況

## 序 文

この報告書は、県営ふるさと農道緊急整備事業に伴い、平成12年度に実施した、八反田・川子地区墓地群と八反田遺跡における埋蔵文化財発掘調査の報告書であります。

この調査により、近世の墓地群、古代の遺物などが検出され、南九州の当時の歴史を解明するうえで多大な成果をあげることができました。

この発掘調査で明らかにされたものは、先人が残した私たちの文化遺産であり、これらの成果を活かすことが、我々に課せられた重大な責務と考えております。本書が町内に所在する文化財の保存に役され、また本町の学術資料として学校教育、社会教育などに幅広く活用頂ければ幸いに存じます。

尚、発掘調査を実施するにあたり、関係各所より頂いたご指導とご協力に対し、心から感謝を申し上げます。

平成17年3月

高岡町教育委員会  
教育長 中山 芳教

## 例　　言

- 1 本書は、県営ふるさと農道緊急整備事業に伴い、2000年度（平成12年度）に実施した埋蔵文化財発掘調査の報告である。
- 2 八反田・川子地区墓地群より出土した古人骨について、その鑑定を峰和治氏（鹿児島大学）に依頼し、玉稿を賜った。それを、第IV章第1節に掲載している。
- 3 現場における測量・実測作業は、一部を（有）ジバング・サーベイに委託し、他を島田正浩・今城正広・藤木（廣田）晶子が行なった。
- 4 八反田・川子地区墓地群より出土した金属製品の保存処理および木材樹種同定、遺物成分分析を（株）吉田生物研究所に委託した。
- 5 遺物の実測・拓本・製図は、[ ]（高岡町教育委員会）の協力を得て、島田・藤木が行なった。金属製品の実測・製図の一部は、株式会社九州文化財研究所に委託した。
- 6 現場における写真撮影は、島田・藤木が行なった。
- 7 八反田遺跡の遺跡番号は335、八反田・川子地区墓地群の遺跡番号は336である。出土遺物は高岡町教育委員会に保管している。遺物の注記は、「遺跡番号-遺構番号/包含層層位-遺物取上番号」を基本とし、収藏番号については、「報告書シリーズ番号+報告書内遺物番号」としている。
- 8 本書の執筆は、第Ⅲ章第1節2を島田が、第V章3と表3の墓碑を今城が、その他及び編集は、藤木が行なった。

## 凡　　例

1. 法量の単位は、遺構は「m」、遺物は「cm」である。
2. 墓標の文字について、異体字や略字、旧字体は、現在の文字に直して表記した。
3. 墓石の型式については、第5図に示している。
4. 「第Ⅱ章 八反田・川子地区墓地群の調査」で用いる用語は下記の意味を持つ。

### 墓石について

墓　碑・・墓石に記される文字

墓　標・・墓碑が記された本体部分

台　石・・台座の石

花煙形・・墓標正面の戒名を記す位置に一段掘り込みを入れた部分

蓮華文・・正面墓碑の下の花弁文様

条　縁・・墓標の頭部に彫り込まれた数条の溝

刻　字・・墓碑を業研磨に掘り込むもの

墨　書・・墓碑を墨で書くもの

### 地下遺構について

土　壙・・遺体が埋葬された穴

## 目 次

### 本文目次

第Ⅰ章 はじめに .....	15
第1節 調査の経緯と組織 .....	15
第2節 遺跡の立地と周辺の環境 .....	15
第Ⅱ章 八反田・川子地区墓地群の調査 .....	20
第1節 調査の経過と方法 .....	20
第2節 墓石の調査 .....	22
1. A区の墓石 .....	24
2. B区の墓石 .....	40
3. C区の墓石 .....	40
第3節 土壌の調査 .....	54
1. A区の土壤 .....	54
2. B区の土壤 .....	78
3. C区の土壤 .....	80
4. D区の土壤 .....	83
5. E区の土壤 .....	84
第Ⅲ章 八反田遺跡の調査 .....	92
第1節 調査 .....	92
第Ⅳ章 分析 .....	94
第1節 宮崎県高岡町八反田・川子地区墓地群出土の近世人骨について .....	94
第2節 八反田・川子地区墓地群出土木製品の樹種調査結果 .....	101
第3節 八反田・川子地区墓地群出土材質不明遺物の成分分析 .....	103
第Ⅴ章 まとめ .....	105

## 挿図目次

第1図 遺跡分布図	17	第36図 30号墓石	41
第2図 周辺地形図	19	第37図 31号墓石	41
第3図 八反田・川子地区墓地群配置図	21	第38図 A区墓石・土壤配置図	54
第4図 A~D区墓石配置図	22	第39図 9・10号土壤実測図(1/30)	55
第5図 墓標の分類	23	第40図 10号土壤出土貨幣実測図及び 拓影図(2/3)	55
第6図 12号墓石	24	第41図 11号土壤実測図(1/30)	56
第7図 14号墓石	25	第42図 11号土壤出土貨幣実測図及び 拓影図(2/3)	56
第8図 8号墓石	25	第43図 12号土壤実測図(1/30)	57
第9図 23号墓石	26	第44図 12号土壤出土貨幣実測図及び 拓影図(2/3)	56
第10図 24号墓石	27	第45図 13号土壤実測図(1/30)	57
第11図 21号墓石	28	第46図 13号土壤出土貨幣実測図及び 拓影図(2/3)	58
第12図 18号墓石	28	第47図 14号土壤実測図(1/30)	58
第13図 19号墓石	29	第48図 14号土壤出土貨幣拓影図(2/3)	58
第14図 16号墓石	29	第49図 15号土壤実測図(1/30)	59
第15図 17号墓石	30	第50図 15号土壤出土貨幣実測図及び 拓影図(2/3)	58
第16図 7号墓石	30	第51図 16号土壤実測図(1/30)	59
第17図 22号墓石	31	第52図 16号土壤出土貨幣実測図(2/3)	59
第18図 9号墓石	31	第53図 17号土壤実測図(1/30)	60
第19図 11号墓石	32	第54図 17号土壤出土貨幣実測図及び 拓影図(2/3)	60
第20図 20号墓石	32	第55図 18号土壤実測図(1/30)	60
第21図 28号墓石	33	第56図 19号土壤実測図(1/30)	61
第22図 6号墓石	33	第57図 19号土壤出土貨幣実測図(2/3)	61
第23図 13号墓石	34	第58図 20号土壤実測図(1/30)	61
第24図 10号墓石	34	第59図 20号土壤出土貨幣実測図(2/3)	61
第25図 26号墓石	35	第60図 21・22・23号土壤実測図(1/30)	62
第26図 27号墓石	35	第61図 21号土壤出土貨幣実測図及び 拓影図(2/3)	62
第27図 1号墓石	36	第62図 24号土壤実測図(1/30)	63
第28図 15号墓石	36	第63図 24号土壤出土貨幣拓影図(2/3)	63
第29図 3号墓石	37		
第30図 2号墓石	38		
第31図 5号墓石	38		
第32図 4号墓石	39		
第33図 25号墓石	39		
第34図 32号墓石	40		
第35図 29号墓石	40		

第64図	25号土壤実測図 (1/30) .....	63	(2/3) .....	72	
第65図	26号土壤実測図 (1/30) .....	63	第95図	40-2号土壤出土貨幣実測図及び 拓影図 (2/3) .....	72
第66図	26号上墳出土遺物実測図 (1/3) .....	64	第96図	41号土壤実測図 (1/30) .....	72
第67図	29号土壤実測図 (1/30) .....	64	第97図	42号土壤実測図 (1/30) .....	72
第68図	29号土壤出土貨幣実測図 (2/3) .....	64	第98図	42号土壤出土貨幣実測図及び 拓影図 (2/3) .....	73
第69図	30号土壤実測図 (1/30) .....	65	第99図	44号土壤実測図 (1/30) .....	73
第70図	30号土壤出土貨幣実測図及び 拓影図 (2/3) .....	65	第100図	45号土壤実測図 (1/30) .....	73
第71図	31号土壤実測図 (1/30) .....	65	第101図	45号上墳出土貨幣実測図 (2/3) .....	73
第72図	31号土壤出土遺物実測図 (1/3) .....	65	第102図	48号土壤実測図 (1/30) .....	74
第73図	31号土壤出土遺物実測図 (2/3) .....	66	第103図	48号土壤出土貨幣実測図及び 拓影図 (2/3) .....	74
第74図	31号土壤出土貨幣実測図及び 拓影図 (2/3) .....	66	第104図	49号土壤実測図 (1/30) .....	74
第75図	32号土壤実測図 (1/30) .....	66	第105図	49号土壤出土貨幣実測図及び 拓影図 (2/3) .....	74
第76図	33号土壤実測図 (1/30) .....	67	第106図	50号土壤実測図 (1/30) .....	75
第77図	33号土壤出土遺物実測図 .....	67	第107図	50号土壤出土貨幣実測図及び 拓影図 (2/3) .....	75
第78図	33号土壤出土貨幣実測図 (2/3) .....	67	第108図	51号土壤実測図 (1/30) .....	75
第79図	34号土壤実測図 (1/30) .....	67	第109図	51号土壤出土貨幣実測図及び 拓影図 (2/3) .....	76
第80図	34号土壤出土貨幣実測図及び 拓影図 (2/3) .....	68	第110図	52号土壤実測図 (1/30) .....	76
第81図	35号土壤実測図 (1/30) .....	68	第111図	52号土壤出土貨幣実測図及び 拓影図 (2/3) .....	76
第82図	36号土壤実測図 (1/30) .....	68	第112図	53号土壤実測図 (1/30) .....	77
第83図	37号土壤実測図 (1/30) .....	69	第113図	53号土壤出土遺物実測図 (2/3) .....	77
第84図	37号土壤出土遺物実測図 (2/3) .....	69	第114図	53号土壤出土貨幣実測図 (2/3) .....	77
第85図	37号土壤出土貨幣実測図及び 拓影図 (2/3) .....	69	第115図	54号土壤実測図 (1/30) .....	77
第86図	38号土壤出土遺物実測図 (1/3) .....	69	第116図	54号土壤出土貨幣実測図及び 拓影図 (2/3) .....	78
第87図	38号土壤実測図 (1/30) .....	69	第117図	55号土壤実測図 (1/30) .....	78
第88図	38号土壤出土遺物実測図 (2/3) .....	70	第118図	B区墓石・土壤配置図 .....	78
第89図	39号土壤実測図 (1/30) .....	70	第119図	27号土壤実測図 (1/30) .....	79
第90図	39号土壤出土貨幣実測図及び 拓影図 (2/3) .....	70	第120図	28号土壤実測図 (1/30) .....	79
第91図	40-1号土壤実測図 (1/30) .....	71	第121図	46号土壤実測図 (1/30) .....	79
第92図	40-1号土壤出土貨幣実測図 (2/3) .....	71	第122図	C区墓石・土壤配置図 .....	80
第93図	40-2号土壤実測図 (1/30) .....	71			
第94図	40-2号土壤出土遺物実測図 .....				

第123図	1号土壤実測図 (1/30) .....	80
第124図	2号土壤実測図 (1/30) .....	81
第125図	2号土壤出土貨幣拓影図 (2/3) .....	81
第126図	3号土壤実測図 (1/30) .....	81
第127図	3号土壤出土貨幣実測図及び 拓影図 (2/3) .....	82
第128図	4号土壤実測図 (1/30) .....	82
第129図	4号土壤出土貨幣実測図及び 拓影図 (2/3) .....	82
第130図	5号土壤実測図 (1/30) .....	83
第131図	D区土壤配置図 .....	83
第132図	43号土壤実測図 (1/30) .....	84
第133図	43号土壤出土遺物実測図 (1/3) .....	84
第134図	47号土壤実測図 (1/30) .....	84
第135図	47号土壤出土貨幣実測図 (2/3) .....	84
第136図	E区土壤配置図 .....	85
第137図	E区土層断面図 .....	85
第138図	6号土壤実測図 (1/30) .....	85
第139図	6号土壤出土遺物実測図 (1/3) .....	85
第140図	6号土壤出土遺物実測図 (2/3) .....	86
第141図	6号土壤出土貨幣実測図及び 拓影図 (2/3) .....	86
第142図	7号土壤実測図 (1/30) .....	86
第143図	7号土壤出土遺物実測図 (1/3) .....	86
第144図	7号土壤出土貨幣拓影図 (2/3) .....	86
第145図	8号土壤実測図 (1/30) .....	86
第146図	8号土壤出土貨幣実測図及び 拓影図 (2/3) .....	86
第147図	八反田遺跡遺物分布図 .....	92
第148図	八反田遺跡出土遺物実測図 (1/3) .....	93

## 表 目 次

表 1	墓石構成石観察表 .....	42	の入骨資料 .....	99	
表 2	墓標年代別集計表 .....	42	表 9	下肢骨の計測値 (mm) .....	99
表 3	墓標観察表 .....	53	表10	高岡町八反田・川子地区墓地群 出土木製品同定表 .....	101
表 4	土壤観察表 .....	87	表11	調査資料一覧 .....	103
表 5	遺物観察表 .....	89	表12	銀色部分の成分分析結果表 .....	103
表 6	貨幣観察表 .....	90	表13	元素サイクル .....	104
表 7	八反田遺跡出土遺物観察表 .....	93	表14	報告書登録抄 .....	111
表 8	八反田・川子地区墓地群出土 .....				

# 第一章 はじめに

## 第1節 調査の経緯と組織

### 1 調査経緯

遺跡は、宮崎県東諸県郡高岡町大字上倉永311-4番地外に所在する。調査の契機は、まず、平成11年2月に文化財の有無について問い合わせがあった。そして同年4月に、ふるさと農道建設に伴う仮設道の設置について、宮崎県中部農林振興局（以下県振興局）と町教育委員会とで、埋蔵文化財の取り扱いについての協議が行なわれた。その中で全体計画が示され、仮設道も含めて周知の遺跡にかかることから、路線内の分布調査を実施することとなった。5月に町教育委員会が宮崎県教育委員会文化課（以下県文化課）立ち会いのもと分布調査を行ない、さらに6月29日から7月15日で確認・試掘調査を行ない、8遺跡14箇所で遺跡の保存状況が良好であることがわかった。その結果をもとに7月末から8月にかけて県振興局、高岡町農村整備課、県文化課、町教育委員会とで協議を行った。その結果、八反田・川子地区墓地群および八反田遺跡の調査を行なうこととなった。

調査期間は、平成12年7月8日から10月11日までである。

### 2 調査組織

調査主体 高岡町教育委員会

#### 調査

2000年度（平成12年度）

教育長	中山 芳教
社会教育課長	四位 行治
文化財係長	黒木 敏幸
主 壱	島田 正浩
主 事	今城 正広
主 事	廣田 晶子

#### 報告

2004年度（平成16年度）

教育長	中山 芳教
社会教育課長	小岩崎 正
文化財係長	島田 正浩
主任主事	今城 正広
主 事	藤木 晶子

また、調査を実施するにあたり、地権者の方をはじめ関係各位のご理解とご協力を頂いた。また、発掘調査から整理報告に至るまで、峰和治（鹿児島大学）、大橋康二（佐賀県立九州陶磁文化館）、橋口亘（坊津町教育委員会）、松林豊樹・和田理啓（宮崎県文化課）、赤崎広志・福田泰典・柳田晴子・丹俊詞（宮崎県埋蔵文化財センター）各氏のご指導・ご助言を得ている。記して深謝の意を表したい。（順不同、敬称略）

## 第2節 遺跡の立地と周辺の環境

### 1 地形的環境

高岡町は山林が70%以上を占める。その町中央を蛇行しながら大淀川が東流し、それによって形成された河岸段丘からその東側に広がる宮崎平野を一望できる。この大淀川に起因する自然環境が大きく人々の生活を左右していたことはいうまでもなく、しかるに歴史的要因にも導かれていた。高岡町の地

形について合原敏幸氏<sup>(1)</sup>は「高岡町南部の高岡山地中央部及び東部には白亜紀の四五十累層群に属する砂岩を作う頁岩、砂岩頁岩互層が分布しており、一部玄武岩、凝灰岩などの塩基性岩類が含まれる。内之八重付近の砂岩頁岩互層中には塩基性岩類に伴って、厚さ1m～2mのチャートが見られる。高岡山地西部には、古第三紀の四五十累層群に属する砂岩を作う頁岩、砂岩頁岩互層が分布しており、高岡山地を南北に横切る高岡断層によって前述の白亜紀の層に接している。高岡町の中心部付近及び高岡山地北部には、新第三紀の宮崎層群に属する砂岩、泥岩、砂岩泥岩互層が広い範囲で分布している。本層は四五十累層群を傾斜不整合の覆う海成層で、貝、カニ、ウニ等の化石を含む。さらに、町中心部付近に及び西部は宮崎層群を不整合に覆い第四紀の礫、砂、及び粘土からなる段丘堆積物、主にシラスからなる姶良噴出物、及び主に礫、砂シルトからなる沖積層がみられる。段丘堆積物、姶良火山噴出物は急傾斜とその上の広い半坦面や緩斜面から形成される台地状の地形を有している。沖積層は、大淀川、浦之名川、内山川、飯田川等の河川流域沿いに分布している。」(高岡町埋蔵文化財調査報告書12集より抜粋)としている。

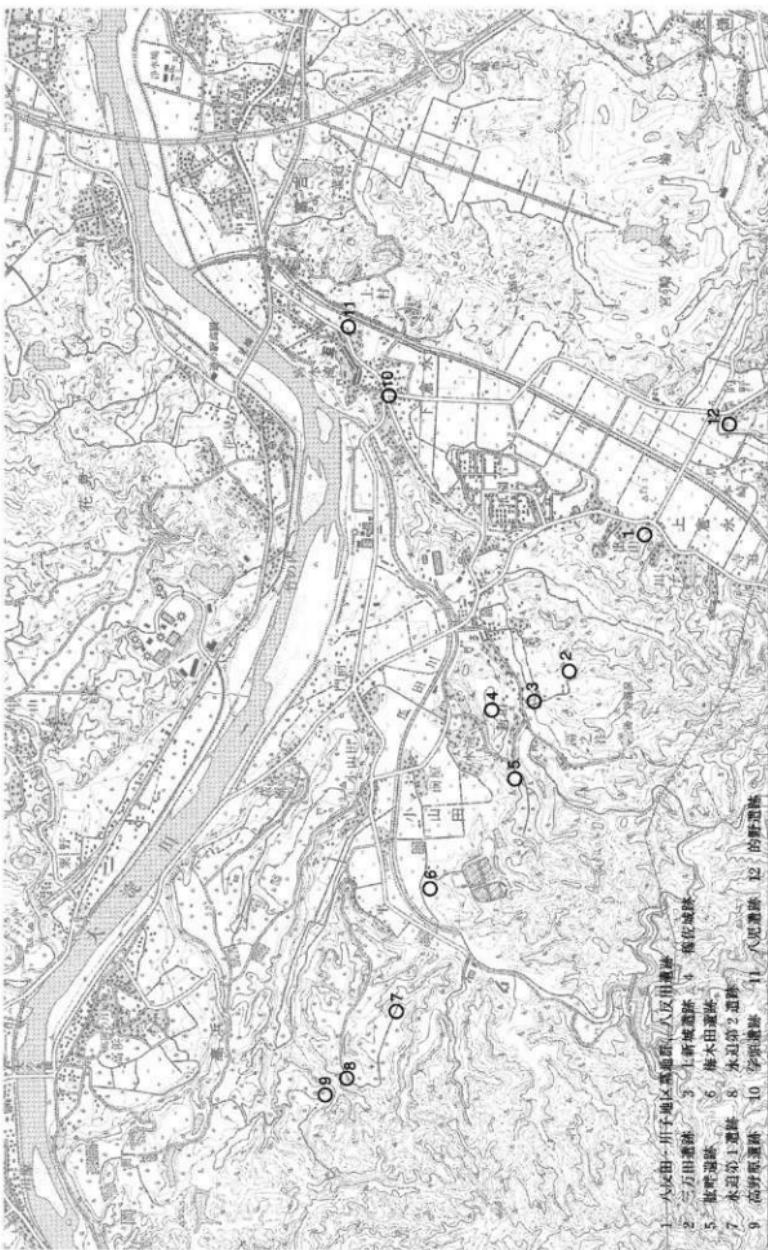
(1) 高岡町役場職員

## 2 歴史的環境

旧石器時代 遺跡の多くは台地あるいは河岸段丘上で確認されている。町内最古の遺跡は、小山田・高浜地区の一連の河岸段丘状で確認されている。高野原遺跡第4地点と永迫第1遺跡、永迫第2遺跡である。高野原遺跡では、9層(姶良Tn火山灰下位)から、接合資料、スクレイバーや石核など含む石器群と、日東産黒耀石製ラウンドスクレイバー1点からなる石器群とが出土した。永迫第1遺跡ではナイフ形石器製作ブロックが検出された。姶良Tn火山灰上位の遺跡は、向屋敷遺跡で砾群(報告原文では集石遺構)とともにナイフ形石器やスクレイバーが出土した。高野原遺跡第1・2地点でも、層位的に不安定ながらナイフ形石器、スクレイバーといった遺物の出土がある。永迫第1遺跡では剥片尖頭器が出土している。また、野尻町に近い一里山地区では、剥片尖頭器が採集されたほか、小田元第2遺跡で、姶良Tn火山灰直上から細石刃文化期までの4時期の旧石器文化層が確認され、高岡町内における旧石器時代編年作業にとっても重要な資料となった。久木野遺跡第8地点では、ナイフ形石器、台形石器群が3文化層確認された。

縄文時代 草創期資料は、茶屋原遺跡で爪形文土器が出土したのみである。早期の発掘調査例は多く、天ヶ城跡、宗栄司、久木野(1区～4区)、橋山第1、橋上、八久保第2、復原、中原、的野、高野原、永迫第1、永迫第2の各遺跡が挙げられる。土器の様相をみると、天ヶ城跡では、押型文土器と桑ノ丸式土器が大半を占め、その両者の折衷土器も出土している。橋山第1遺跡は、前平、吉田、下剥峰、桑ノ丸、平柄、寒ノ神、苦浜、押型文等の各型式の土器が出土した。また、永迫第2遺跡ではアカホヤ火山灰下位から块状耳飾が出土した。永迫第1遺跡では帖地型石錐製作ブロックが確認された。各遺跡の遺構は、集石遺構や陥し穴式遺構が中心で掘り込みや柱穴をもつ住居は現時点では検出していない。前期は久木野遺跡第1区、永迫第2遺跡などで確認されている。中期は同じく久木野遺跡で春日、大平の各型式のものが出土している。後期は的野遺跡で阿高系・岩崎下層式、綾式土器などが出土した。橋山第1遺跡では阿高系の土器や疑似縄文の土器が出土した。さらに久木野遺跡では円形竪穴住居跡とともに北久根山式が出土している。城ヶ峰遺跡では市来式や北久根山式が出土し

第1圖 遊跡分布圖



た。晩期は黒色磨研上器が学頭遺跡から出土している。

**弥生時代** 後期資料の調査例が多く、前～中期の調査例は少ない。標高15m程の微高地状のところに位置する学頭遺跡からは、断面V字状を呈する溝状構造や竪穴住居跡が検出された。舌状の丘陵先端部の位置する的野遺跡では、後期の土壙墓が検出された。

**古墳時代** 集落遺跡の調査は八児遺跡や高岡麓遺跡第5地点がある。高岡麓遺跡では2軒の竪穴住居跡が検出され5世紀中頃に比定されている。また、八児遺跡は側壁にカマドが付設された竪穴住居跡（7世紀代）などが12軒以上検出された。両遺跡とも標高がほぼ同じで大淀川の氾濫源である低地に位置しており、該期集落の一端をみることが出来る。次に、墳墓遺跡の調査は久木野地下式横穴墓群がある。これまで4基の調査がおこなわれ、人骨とともに鉄斧や玉類が出土し6世紀前半としている。また、町内には3基の円墳（県指定古墳）がある。その古墳付近で、耕作中に壺が2点と鉄製品が発見されている。

**古代** 高岡周辺は承平元年（931～938年）の和名抄によると、その当時は「穆佐郷」といわれていた。それより遡る時代の遺跡が最近の調査で確認されている。一つは蘇野遺跡で、大淀川北岸の丘陵（大字花見）に位置し、9世紀後半の土師器の椀、皿などを生産した焼成構が6基以上検出された。三生江遺跡や的野遺跡からは同時期の越州窯系青磁碗や綠釉陶器などが出土している。また、宗栄寺遺跡や二反野遺跡で土師器碗が出土している。古代の墳墓としては、八児遺跡から胡洲鏡、鎧、石鍋等を副葬した土壙墓が検出されている。

**中世** 建久園田帳によると高岡は、12世紀には「島津庄穆佐院」といわれていた。その後、南北朝期を経て、島津氏と伊東氏の対立を迎える。その中心となったのが穆佐城である。穆佐城は足利尊氏が九州の拠点としたことからはじまる。その後、島津久豊・忠国の居城、そして伊東氏48城のひとつとなっていく。平成3年には穆佐城の縄張り調査を実施し、その成果として、南九州特有の特徴をもつとともに機能分化のみられる山城であることがわかった。そのような中で、穆佐城周辺の大淀川沿いにも小規模な山城が点在し、戦国時代から近世へと移っていく。

**近世** 中世までは高岡の中心地は穆佐城周辺だったのでに対して江戸の時期になると天ヶ城周辺に一変する。鹿児島藩は、天ヶ城と穆佐城の裾地に多くの郷士を移住させ麓を形成させた。そして、綾、倉岡とともに閑外四ヶ郷として、特に高岡郷はその中心として鹿児島藩の東方の防衛の要として発展する。高岡の地頭仮屋を中心に広がる高岡麓遺跡は、計画的な街路設計がなされ、郷上屋敷群と町屋群に分割されている。調査はすでに12箇所以上で実施され、町屋を調査した第1地点では大火跡と思われる焼上層の下から素堀の井戸や土坑を検出した。さらに、第5地点では郷上屋敷群の一角を調査し建物跡や陶器類を検出、第8地点では武家門の下部構造を明らかにした。既刊の近世期の発掘調査は高岡麓遺跡だけに留まっているが、道路脇などの石塔類からも当時の状況を知ることができる。

### 3 遺跡の立地

八反田・川子地区墓地群は、宮崎層群を起源とする疊層からなる丘陵上に位置する。墓地群からは、南に広がる平野部や東流する江川を一望できる。八反田遺跡は、墓地群から北西側へ続く丘陵の東斜面に位置する。江川流域の遺跡には、的野遺跡、学頭遺跡、八児遺跡などがある。

第2図 周辺地形図 ( $S = 1/5,000$ )



## 第Ⅱ章 八反田・川子地区墓地群の調査

### 第1節 調査の経過と方法

#### 1 墓地改葬と調査対象時期について

八反田・川子地区墓地群は、近世から昭和50年代まで使用されていた墓地である。その後、共同墓地へ移設する事となる。上倉永字林昌1837-1外に共同墓地が建設され、昭和57年8月17日、県から墓地經營の許可を受ける。縁故者のわかる墓については改葬が行なわれ、林昌共同墓地へと移された。従つて、遺跡に残存する墓は、すべて無縁墓である。それらの無縁墓のうち、近世のものを対象に、外表遺構である墓石と、地下遺構である土壤の発掘調査を行なった。

#### 2 墓地群の位置と細分

八反田・川子地区墓地群は、字八反田と字川子にある2カ所の墓地群の総称である（第3図）。八反田地区は、4つの墓域（地区）に分けることができ、最も広い地区をA区、その東に位置する地区をB区、南に位置する地区をC区、西側の地区をD区とする。さらに、調査範囲からは外れるが、D区の西側に尾根に沿った形で比較的新しい墓地が形成されている。これらの墓地へと登る墓道は八反田集落側である北側に登り口が設けられている。墓道はB区の手前で分岐し、B区の西側を通りA区やD区へと続く道と、B区の東側を通りC区へ続く道とに分かれる。主要墓道は前者のA区を通る道である。

川子地区は、上段のE区、下段のF区に分けることが出来、E区の上段にも調査対象範囲外の墓地がある。墓地には、川子地区的集落側から登る階段が設けられている。

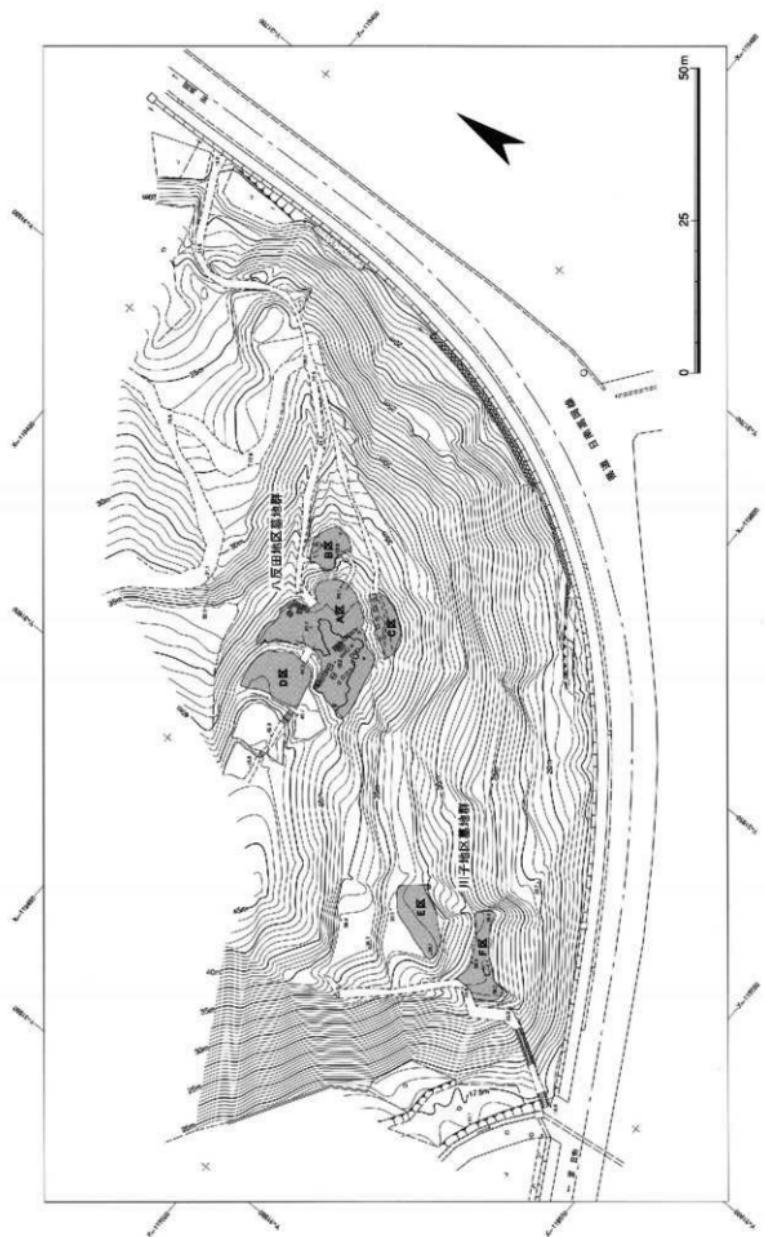
#### 3 調査抄録

平成12年7月8日から墓地群周辺の伐採・除草、調査用杭打ちなどを実施した。19日から墓地群地形測量を始め、21日に墓石の移動といった本格的な調査を開始した。作業員駐車場として、墓地群下の土地を借りた。また、作業率と衛生面を考慮した水道・ベルトコンベアー使用のための電気を設置した。墓地内には近代以降の墓石もかなりあり、近世墓石のうち位置の復元ができないものとともに、地権者の指定した調査範囲外に移動した。移動は、危険な作業であるため、墓石専門の業者に依頼した。その際に、近世墓標の文字は全て記録した。緊急を要する調査で時間がなかったため、対空標識を用いたデジタルカメラによる撮影を行ない、図化は室内作業で行なった。復元できる墓石については元の位置に戻し、個別の写真撮影と実測を行なった。墓石の実測は業者に委託した。並行して、重機及び人力での表土剥ぎを行ない、墓石の検出状況の空中写真撮影を実施した。

8月22日、全ての墓石を移動し、土壤の検出を開始した。近年の改葬によって掘られた穴の中に大量の墓石が廃棄されておりその撤去作業をチェーンブロックなどを使って行なったが、予想以上に困難を極めた。また、コンクリートの円筒形容器や骨壺、衣類などが見つかったが、以下に記す様に、その都度、県中部農林振興局担当者・警察・保健所にそれぞれ連絡し、指示に従い対処した。

D区掘削中にコンクリート製円筒形容器と蓋が検出された。県保健所に連絡し、8月29日に、同職員

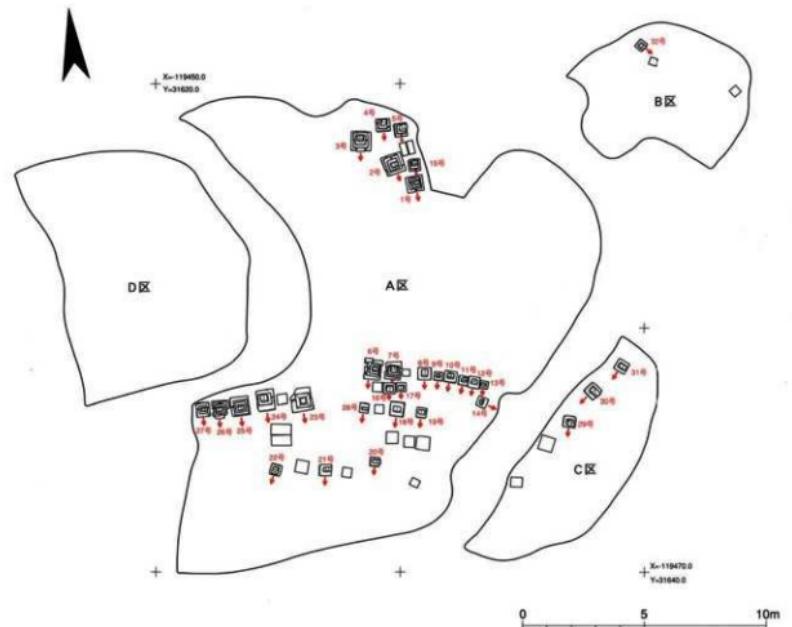
第3図 八反田・川子地区墓地群配置図



2名が来跡。消毒液3本を容器の中と周辺に流す処置を行なった。①この容器やその他の墓の歯については心配しなくても良いこと、②周辺は発掘調査で触らない方がよいこと、③土中は酸素が少なく破傷風菌が繁殖し易いため手袋を付けて作業した方がよいこと、などの指導を受けた。

また、同日、E区より、骨壺と衣服、歯が出土した。骨壺は、地区の住民の方が共同墓地への改葬を行なわれた。高岡警察署に連絡し、9月4日、同職員1名が来跡。以前墓地であった場所のため、衣類とともに出土した歯については、遺失物法には触れないと指導があった。

土壌調査中は、感染防止のため、噴霧器による機材の消毒や石けんによる手洗いを徹底した。土壌の



第4図 A～D区墓石配置図

掘削中に、未改葬の近代以降と考えられる人骨も確認され、それらの土壙は、掘削を中止した。近代以降と考えられた人骨やコンクリートの円筒形容器は、その位置を示した図面とともに、調査終了後、そのままの状態で、中部農林振興局に引き渡した。整理作業中に明治以降の所産と判明した土壙（6号土壙）は本書に掲載している。9月6日に、B区で新しい人骨1体全体会が発見された時は、翌週14日に、警察に報告を行なった。特に指導はなかった。この段階で当初予定していた9月中の調査終了は困難とわかり、中部農林振興局に10月中旬までの調査期間延長を申し出、承諾を得た。

本来の目的である近世土壙は表土をさらに掘り下げなければ検出できず、人力と重機によって掘削を続けた。いくつかの土壙からは古人骨が出土した。古人骨については専門家に取り上げ方の指導を仰いだ。その他、簪・キセル・貨幣などが副葬品として納められていた。土壙の完掘後、個別の写真撮影と実測を行ない、10月5日に、2度目の空中写真撮影を行なった。10月11日に墓地群の調査を終了した。

## 第2節 墓石の調査

墓標と台石とが組み合い、墓石の位置が復元出来たものは、計32基確認された。すべて八反田地区のものであり、川子地区では皆無であった。内訳は、A区28基、B区1基、C区3基である（第4図）。これらの墓石は、現場で1/5の実測を行なった。但し、墓碑については、写真測量したものを整理段階で図化した。掲載している個別の墓石実測図は、墓標の正面に合わせて台石のそれを一部修正した。

位置復元が出来ない墓標は、すべての地区で発見された。その内訳は、A区32基、B区7基、C区2基、D区32基、E区33基、F区8基、八反田地区北斜面1基で、計115基を数える。これらの墓標については、調査時に正面と側面を写真測量し、整理作業の段階でデジタル図化まで行なった。本書では「表3 墓標観察表」に寸法や墓碑を記し、図面は掲載しなかった。表3はすべての墓標を年代順に並べている。

墓石の構成は、まず台石が1段のもの、2段のもの、3段のものがある。さらに、墓標の上位に笠が



第5図 墓標の分類模式図

乗るものが確認されている。それらの墓標を除いた墓石の構成石の寸法を「表1 墓石構成石観察表」に示す。

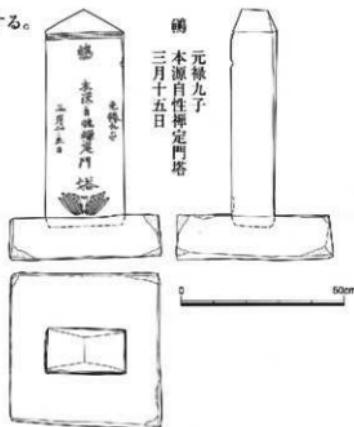
墓標を形態によって分類した（第5図）。まず、墓標の頭部形態で、A切妻形、B寄棟形、C平坦、Dカマボコ形に分類できる。C平坦は、上位に笠が付くものがあり、笠付きをEとした。また、墓標の正面形態で、1平坦なもの、2花燈形を有するもの、3条線を有するもの、4花燈形と条線を有するものの4タイプに分けることが出来る。A～Eと1～4を組み合わせて、A-1類（頭部形態が切妻形で、正面形態が平坦なもの）の様に標記している。分類結果を年代別に表したもののが、「表2 墓標年代別集計表」である。

## 1 A区の墓石

A区の墓石は28基が確認され、南側と北側の大きく2カ所に分かれていた（第4図）。墓石間の距離はかなり狭いものもあり密接している墓石もあった。調査によって判明した土壤との位置関係をみると、土壤の上位に墓石が位置するものとそうでないものがある。さらに墓標32基と台石が墓域の端に積まれていた。このようなことから、墓石の配置が、墓作成当時の位置を保っているとは考えにくく、墓石の移動が行なわれたと考えられる。立っている墓石の墓標に記されている年代と配置を調べた結果、1690年代～1760年代までの墓石が南側に、1770年代～1860年代のものが北側に配置してある。おそらく、1770年代に墓石の移動を行ない、新しい墓を掘る空間を作ったのだろう。さらに、後世になって、B区の西側を通りD区へと登る際の墓道として利用するため、1770年代以降の墓石を北側に移動し、現在の配置状況になったと考えられる。以下、墓石を年代順に掲載する。

### 12号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.76mである。台石は幅0.41m奥行0.48mを測る。墓標の形態はB-3類である。戒名の下に蓮華文を有する。



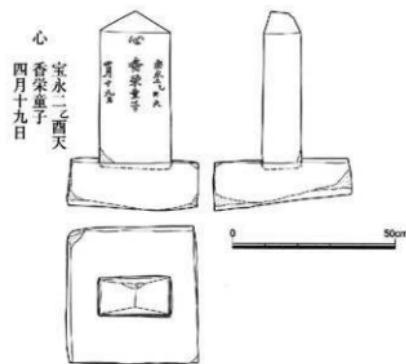
第6図 12号墓石 (1696年)



12号墓石



14号墓石



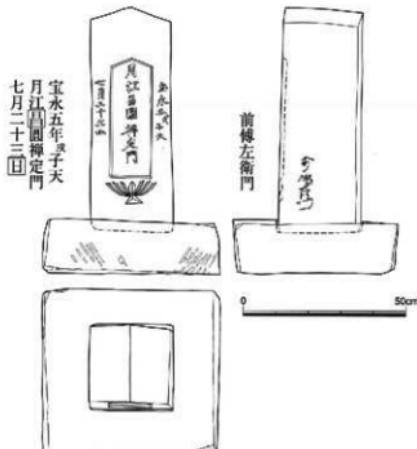
第7図 14号墓石 (1705年)

#### 14号墓石

南側の墓石群であり、正面を東に向いていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.61m、台石は幅0.41m奥行0.42mを測る。墓標の形態は、B-1類である。子供の墓である。



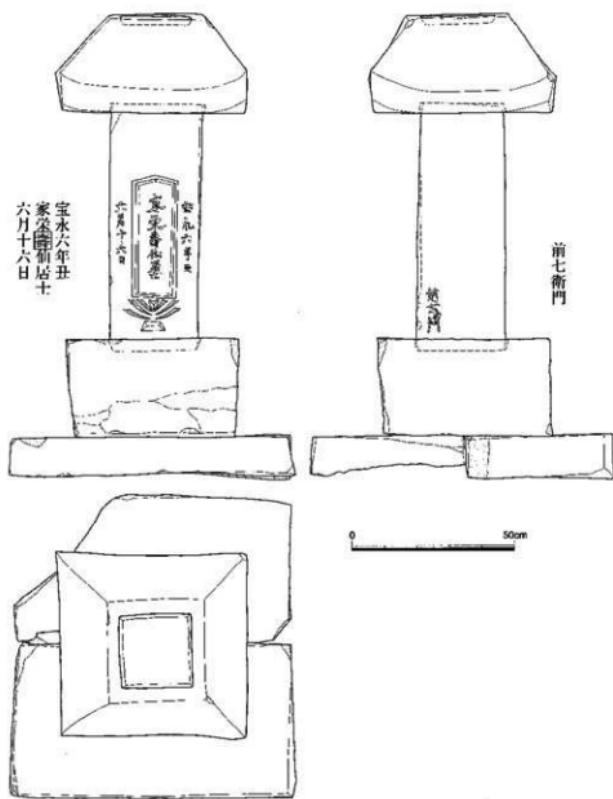
8号墓石



第8図 8号墓石 (1708年)

#### 8号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.71m、台石は幅0.55m奥行0.50mを測る。墓標の形態は、A-2類である。花燈形の下に蓮華文を有する。



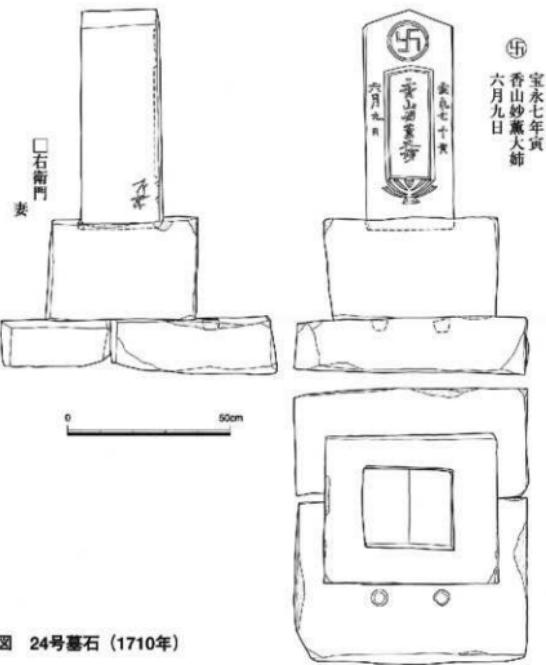
第9図 23号墓石（1709年）

#### 23号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向いていた。墓石は、台石2段と墓標、笠で構成される。笠の上の宝珠はなくなっていた。墓石の全体高は1.43mである。1段目の台石は高さ0.29m幅0.53m奥行0.53mと厚みがある。2段目の台石は前後の2枚で構成される。幅0.88m奥行0.94mを測る。笠の小法は、高さ0.3m幅0.58m奥行0.57mである。墓標の形態は、E-2類である。花燈形の下に蓮華文を有する。

#### 24号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向いていた。墓石は、台石2段と墓標で構成される。墓石の全体高は1.11mである。1段目の台石は高さ0.31m幅0.54m奥行0.46mを厚みのある石である。2段目の台石は幅0.71m奥行0.85mで、前後2枚で構成される。前側の台石に花を挿入する孔が2カ所に設けられている。墓標の形態はA-2類である。花燈形の下に蓮華文を有する。



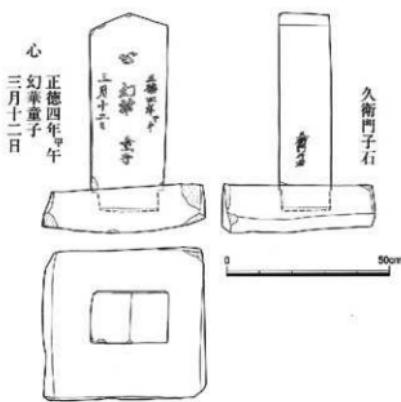
第10図 24号墓石（1710年）



23号墓石



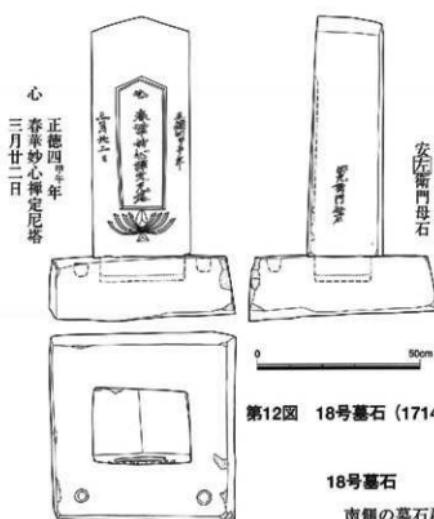
24号墓石



第11図 21号墓石 (1714年)

#### 21号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向いていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.67mである。台石は幅0.50m奥行0.45mを測る。墓標の形態はA-1類である。子供の墓である。



第12図 18号墓石 (1714年)

#### 18号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向いていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.93mである。台石は幅0.57m奥行0.59mを測る。台石前方に花挿入の孔が2カ所に設けられる。墓標の形態はA-2類である。花燈形の下に蓮華文を有する。



19号墓石



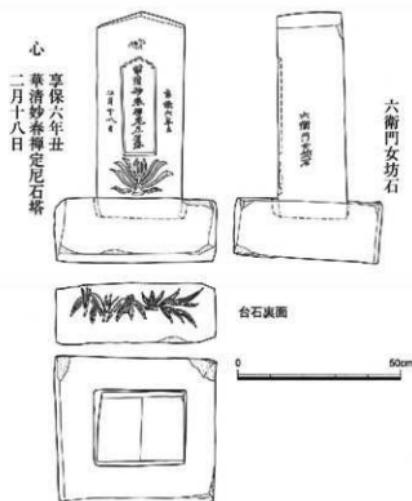
第13図 19号墓石 (1719年)

#### 19号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.63mである。台石は幅0.42m奥行0.41mを測る。墓標の形態はA-1類である。子供の墓である。



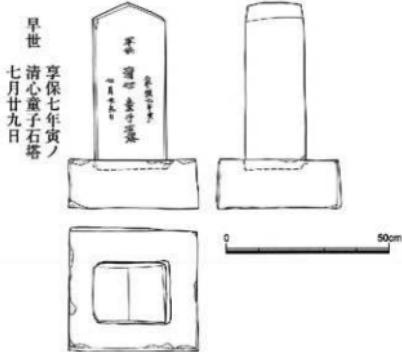
16号墓石



第14図 16号墓石 (1721年)

#### 16号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.77mである。台石は幅0.50m奥行0.44mを測る。台石裏面に竹の文様が彫り込まれている。墓標の形態はA-2類である。花燈形の下に蓮華文を有する。



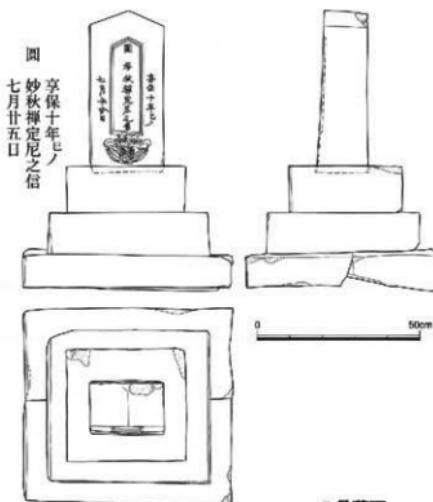
第15図 17号墓石 (1722年)



17号墓石

#### 17号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向いていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.63mである。台石は幅0.39m奥行0.38mを測る。墓標の形態はA-1類である。子供の墓である。



第16図 7号墓石 (1725年)

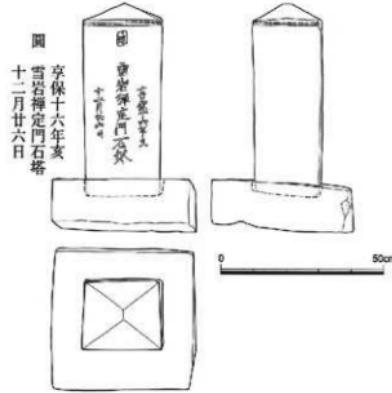


7号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向いていた。墓石は、台石3段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.81mである。台石は一段目幅0.36m奥行0.34m、二段目幅0.50m奥行0.47m、三段目は幅0.64m奥行0.61mを測り、前後2枚の石で構成される。墓標の形態はA-2類である。花燈形の下に蓮華文を有する。



22号墓石



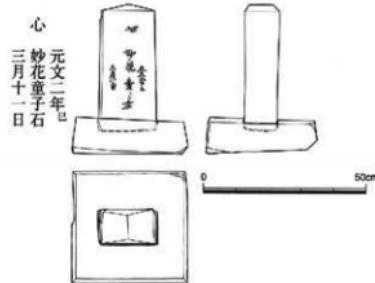
第17図 22号墓石 (1731年)

#### 22号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.70mである。台石は幅0.44m奥行0.42mを測る。墓標の形態はB-3類である。



9号墓石



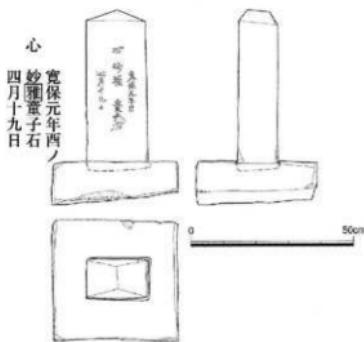
第18図 9号墓石 (1737年)

#### 9号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.46mである。台石は幅0.35m奥行0.35mを測る。墓標の形態はB-1類である。子供の墓である。



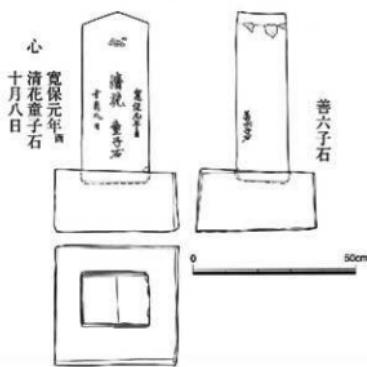
11号墓石



第19図 11号墓石 (1741年)

### 11号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向いていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.60mである。台石は幅0.38m奥行0.36mを測る。墓標の形態はB-1類である。子供の墓である。



第20図 20号墓石 (1741年)



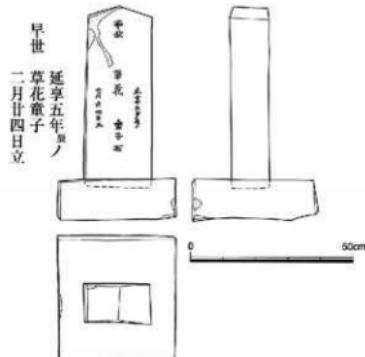
20号墓石

### 20号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向いていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.67mである。台石は幅0.38m奥行0.36mを測る。墓標の形態はA-1類である。子供の墓である。



28号墓石



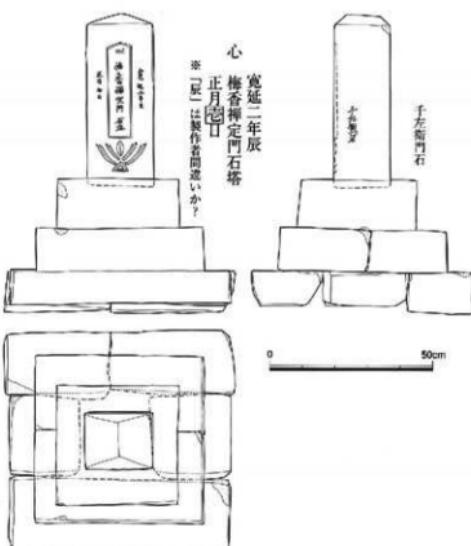
第21図 28号墓石 (1748年)

28号墓石

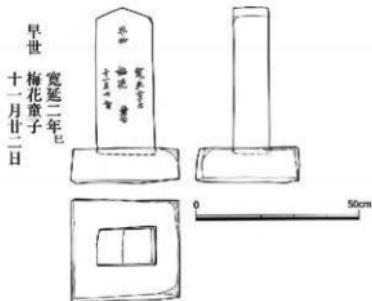


6号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向いていた。墓石は、台石3段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.92mである。台石一段目は幅0.38m奥行0.37m、二段目は幅0.52m奥行0.52mで前後2枚の石で構成される。三段目は幅0.71m奥行0.67mを測り、前1枚、左右に各1枚、後2枚の合計5枚の石で構成され、中心は空洞となる。墓標の形態はB-2類である。花燈形の下に蓮華文を有する。



第22図 6号墓石 (1749年)

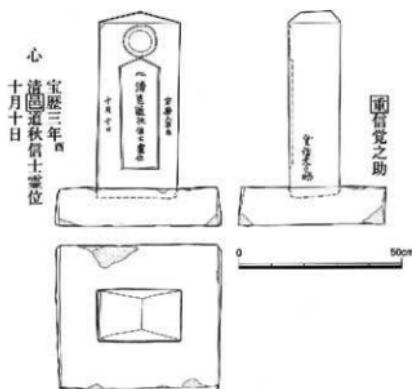


第23図 13号墓石 (1749年)



### 13号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向いていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.54mである。台石は幅0.33m奥行0.31mを測る。墓標の形態はA-1類である。子供の墓である。



第24図 10号墓石 (1753年)



### 10号墓石

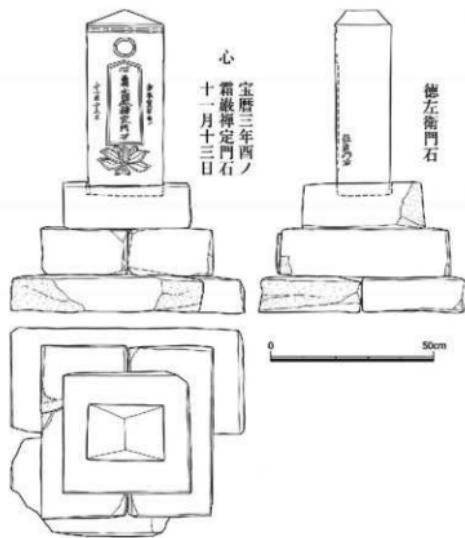
南側の墓石群であり、正面を南に向いていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.66mである。台石は幅0.51m奥行0.45mを測る。墓標の形態はB-2類である。

### 26号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向いていた。墓石は、台石3段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.93mである。台石一段目は幅0.39m奥行0.37m、二段目は幅0.53m奥行0.53mを測り、左右2枚の石で構成される。三段目は幅0.71m奥行0.62mを測り、前後2枚の石で構成される。墓標の形態はB-4類である。花燈形の下に蓮華文を有する。



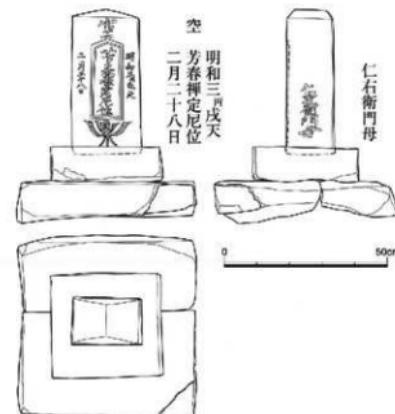
26号墓石



第25図 26号墓石 (1753年)



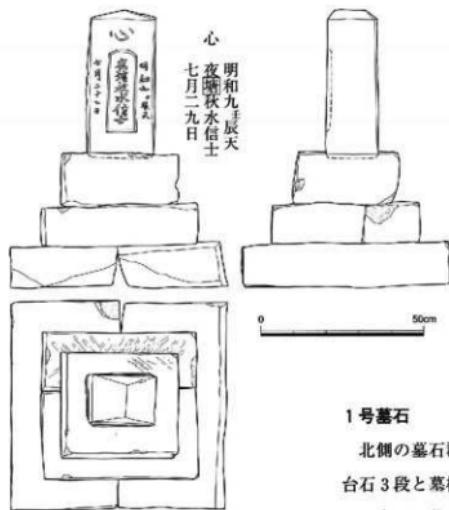
27号墓石



第26図 27号墓石 (1766年)

27号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石2段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.66mである。台石一段目幅0.34m奥行0.32m、二段目幅0.55m奥行0.54mを測り前後2枚の石で構成される。墓標の形態はB-2類である。花燈形の下に蓮華文を有する。



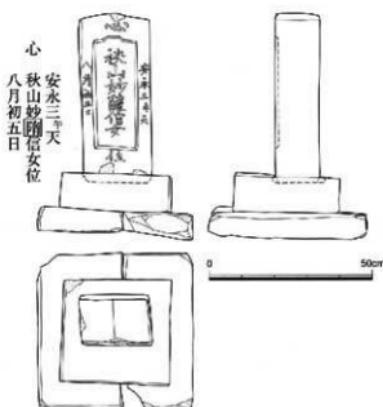
第27図 1号墓石 (1772年)

#### 1号墓石

北側の墓石群であり、正面を南に向いていた。墓石は、台石3段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.85mである。台石一段目は幅0.34m奥行0.33m、二段目は幅0.48m奥行0.45mを測り、前後2枚の石で構成される。三段目は幅0.64m奥行0.64mを測り、左右2枚の石で構成される。墓標の形態はB-2類である。

#### 15号墓石

北側の墓石群であり、正面を南に向いていた。墓石は、台石2段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.69mである。台石一段目は幅0.34m奥行0.32m、二段目は幅0.48m奥行0.49mを測り、左右2枚の石で構成される。墓標の形態はA-2類である。



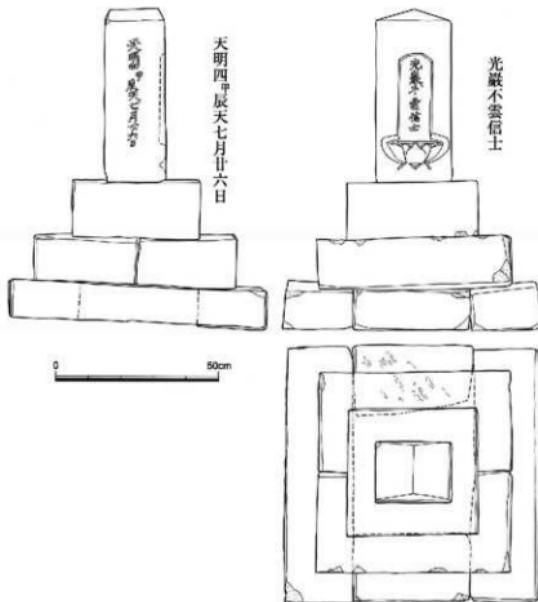
第28図 15号墓石 (1774年)



1号墓石

### 3号墓石

北側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石3段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.98mである。台石一段目は幅0.40m奥行0.39m、二段目は幅0.59m奥行0.62mを測り、前後2枚の石で構成される。三段目は幅0.76m奥行0.79mを測り、前後各1枚、左右各1枚の4枚の石で構成され、中心は空洞である。墓標の形態はB-2類である。花燈形の下に蓮華文を有する。



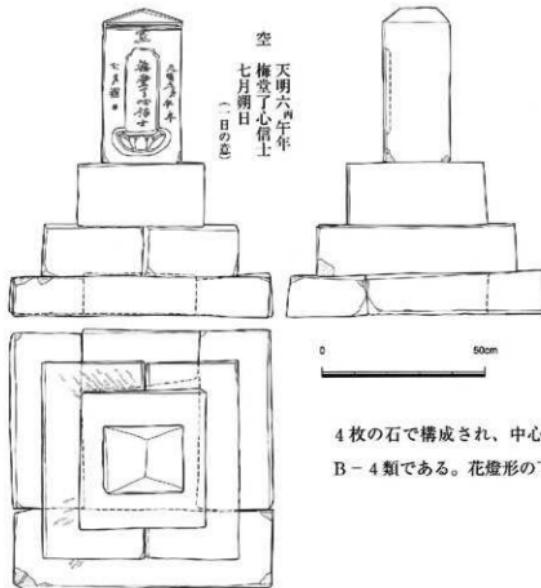
第29図 3号墓石（1784年）



3号墓石



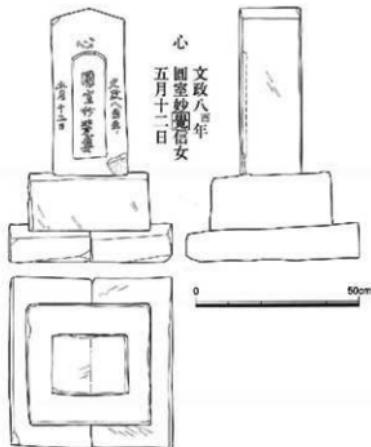
2号墓石



第30図 2号墓石（1786年）

#### 5号墓石

北側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石2段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.78mである。台石一段目は幅0.38m奥行0.38m、二段目は幅0.50m奥行0.53mを測り、左右2枚の石で構成される。墓標の形態はA-2類である。



第31図 5号墓石（1825年）

#### 2号墓石

北側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石3段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.94mである。台石一段目は幅0.39m奥行0.42m、二段目は幅0.60m奥行0.60mを測り、左右2枚の石で構成される。三段目は幅0.80m奥行0.80mを測り、前後各1枚、左右各1枚の

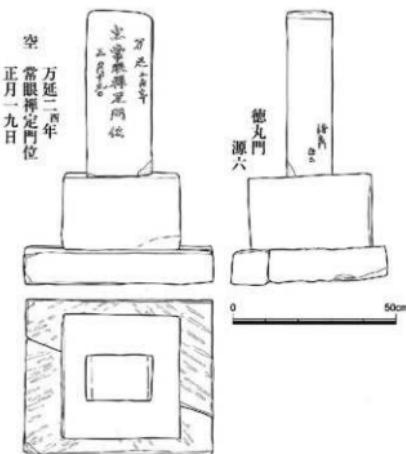
4枚の石で構成され、中心は空洞である。墓標の形態はB-4類である。花燈形の下に蓮華文を有する。



5号墓石

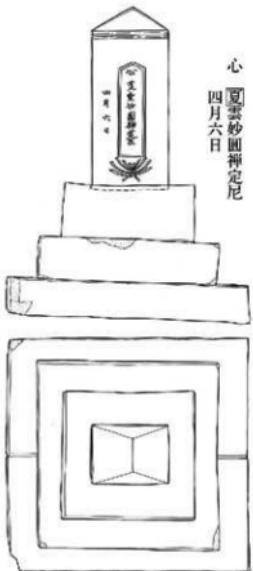


4号墓石



第32図 4号墓石 (1861年)

北側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石2段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.84mである。台石一段目は高さ0.22m幅0.36m奥行0.38mを測り、厚めの石を利用する。二段目は幅0.58m奥行0.48mを測り、前後2枚の石で構成される。墓標の形態はC-1類である。



第33図 25号墓石

25号墓石



25号墓石

南側の墓石群であり、正面を南に向けていた。墓石は、台石3段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.97mである。台石一段目は幅0.40m奥行0.39m、二段目は幅0.56m奥行0.58m、三段目は幅0.74m奥行0.73mを測り、前後2枚の石で構成される。墓標の形態はB-4類である。花燈形の下に蓮華文を有する。没年代が刻字されていない。

## 2 B区の墓石

B区では1基の墓石のみが確認された。



32号墓石

### 32号墓石

正面を南東に向けていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.66mである。台石は幅0.40m奥行0.34mを測る。墓標の形態はB-2類である。花燈形の下に蓮華文を有する。蓮華文と没月日に朱が施される。

## 3 C区の墓石

C区は、台石5基は下部遺構である土壤と対応すると考えられる。そのうち3基に墓標が残っていた。



29号墓石

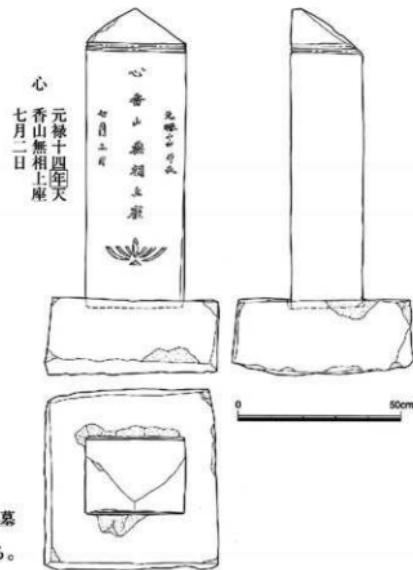
正面を南に向けていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.92mである。台石は幅0.52m奥行0.47mを測る。墓標の形態

はB-3類である。戒名の下に蓮華文を有する。



30号墓石

正面を南に向けていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は1.12mである。台石は幅0.50m奥行0.56mを測る。墓標の形態はA-3類である。戒名の下に蓮華文を有する。

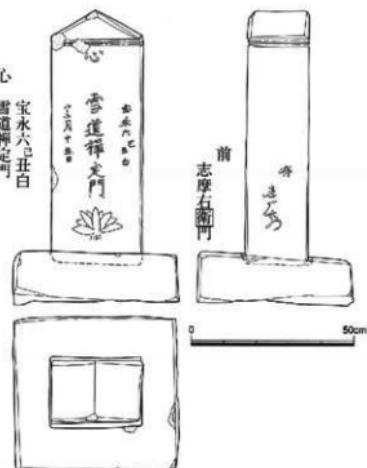


第36図 30号墓石 (1701年)



31号墓石

正面を南に向けていた。墓石は、台石1段と墓標で構成される。墓石の全体高は0.89mである。台石は幅0.50m奥行0.48mを測る。墓標の形態はA-3類である。戒名の下に蓮華文を有する。



第37図 31号墓石 (1709年)

表1 墓石構成石観察表(年代順)

西暦	墓石番号	地区名	墓石の構成	台石一段目		台石二段目		台石三段目		備考
				構成石数	寸法	構成石数	外寸法	構成石数	外寸法	
1696	12号	A区	台石1段	1	高0.13×幅0.41×奥0.48					
1697	29号	C区	百石1段	1	高0.15×幅0.52×奥0.7					
1701	30号	C区	台石1段	1	高0.22×幅0.50×奥0.36					
1705	14号	A区	台石1段	1	高0.14×幅0.41×奥0.42					
1708	8号	A区	台石1段	1	高0.15×幅0.55×奥0.50					
1709	23号	A区	野百石2段	1	高0.29×幅0.53×奥0.53	2	高0.12×幅0.58×奥0.94	多寸法	高0.30×幅0.58×奥0.57	
1709	31号	C区	台石1段	1	高0.14×幅0.50×奥0.48					
1710	24号	A区	台石2段	1	高0.31×幅0.54×奥0.46	2	高0.15×幅0.71×奥0.85			花崗穴面有(径5cm深4cm)
1714	18号	A区	台石1段	1	高0.18×幅0.57×奥0.59					花崗穴2面有(径4cm深4cm)
1714	21号	A区	台石1段	1	高0.14×幅0.50×奥0.45					
1719	19号	A区	台石1段	1	高0.13×幅0.42×奥0.41					
1721	16号	A区	台石1段	1	高0.18×幅0.50×奥0.44					
1722	17号	A区	台石1段	1	高0.14×幅0.39×奥0.38					
1725	7号	A区	台石3段	1	高0.14×幅0.36×奥0.34	1	高0.13×幅0.50×奥0.47	2	高0.10×幅0.64×奥0.61	
1731	22号	A区	台石1段	1	高0.14×幅0.44×奥0.42					
1737	9号	A区	台石1段	1	高0.10×幅0.35×奥0.35					
1741	11号	A区	台石1段	1	高0.13×幅0.38×奥0.36					
1741	20号	A区	台石1段	1	高0.19×幅0.38×奥0.36					
1747	32号	B区	台石1段	1	高0.12×幅0.40×奥0.34					
1748	28号	A区	台石1段	1	高0.12×幅0.31×奥0.38					
1749	13号	A区	台石1段	1	高0.10×幅0.33×奥0.31					
1749	6号	A区	台石3段	1	高0.15×幅0.38×奥0.37	2	高0.15×幅0.52×奥0.52	5中空	高0.12×幅0.71×奥0.67	
1753	10号	A区	台石1段	1	高0.12×幅0.51×奥0.45					
1753	26号	A区	台石3段	1	高0.13×幅0.39×奥0.37	2	高0.14×幅0.53×奥0.53	2	高0.10×幅0.71×奥0.62	
1766	27号	A区	台石2段	1	高0.10×幅0.34×奥0.32	2	高0.12×幅0.55×奥0.54			
1772	1号	A区	台石3段	1	高0.17×幅0.34×奥0.33	2	高0.12×幅0.48×奥0.45	2	高0.12×幅0.64×奥0.61	
1774	15号	A区	台石2段	1	高0.11×幅0.34×奥0.32	2	高0.08×幅0.48×奥0.19			
1784	3号	A区	台石3段	1	高0.17×幅0.40×奥0.39	2	高0.15×幅0.59×奥0.62	4中空	高0.11×幅0.76×奥0.79	
1786	2号	A区	台石3段	1	高0.19×幅0.39×奥0.42	2	高0.15×幅0.60×奥0.60	4中空	高0.12×幅0.80×奥0.80	
1825	5号	A区	台石2段	1	高0.16×幅0.38×奥0.38	2	高0.11×幅0.50×奥0.53			
1861	4号	A区	台石2段	1	高0.12×幅0.36×奥0.38	2	高0.11×幅0.58×奥0.48			
?	25号	A区	台石3段	1	高0.17×幅0.40×奥0.39	1	高0.13×幅0.56×奥0.58	2	高0.11×幅0.71×奥0.73	花崗穴面有(径5cm深3cm)

※23号墓石は笠の寸法を台石3段目標に記す。

表2 墓標年代別集計表

墓標の型式	A-1	A-2	A-3	A-4	B-1	B-2	B-3	B-4	C-1	C-2	D-1	D-2	E-2	形式不明	計
1660年代								1						1	
1670年代								1						1	
1680年代	2													2	
1690年代								2						2	4
1700年代	1	2	1	2										1	7
1710年代	4	2		1										1	8
1720年代	3	2			1	2		1						9	
1730年代	2				1	2	1	1						7	
1740年代	5		1		3	7		2	1					19	
1750年代						3		5		1				9	
1760年代	1	2		1		3		2						9	
1770年代	1	3		1	1	5								11	
1780年代	3	4			2		1							10	
1790年代	2	3												1	6
1800年代	1													1	2
1810年代		5												5	
1820年代	2	1							1	1				5	
1830年代	1	3												4	
1840年代		1												1	2
1850年代														0	
1860年代									1	1	1			3	
年代不明	2	4		3	2	2	3			2	1			4	23
計	29	31	3	7	8	26	7	15	2	2	3	4	1	9	147

西曆		和曆													
94号	87号	72号	71号	68号	65号	53号	25号	132号	墓石番号	地区	墓石形式	前面	墓標寸法	正面文様	性別
B区	D区	D区	D区	C区	A区	A区	A区	E区	(上部欠損) 不明						
A <sub>2</sub>	D <sub>1</sub>	B <sub>2</sub>	A <sub>2</sub>	B <sub>3</sub>	A <sub>2</sub>	A <sub>4</sub>	B <sub>4</sub>		33						
高 0.51 幅 0.21 厚 0.17	高 0.51 幅 0.21 厚 0.17	高 0.56 幅 0.21 厚 0.15	高 0.47 幅 0.21 厚 0.18	高 0.55 幅 0.23 厚 0.13	高 0.49 幅 0.21 厚 0.18	高 0.66 幅 0.17 厚 0.15	高 0.56 幅 0.23 厚 0.18	高 0.51 幅 0.28 厚 0.15							
蓮華文		蓮華文		蓮華文		蓮華文		蓮華文							
女性	女性	女性	女性	男性	女性	女性	女性	女性		男性	年齢	墓碑(正面)	墓碑(側面)	文字種	
成人	成人	成人	成人	子供	成人	心	心	心		成人					
妙輪輝定尼	漸昇勤左エ門妻墓	十一月廿日	和七 妙輪 信女	春花妙良信女	口 煙子	口	口	口	?	四月六日	庚午 白性輝定門 四月六日	山本源五郎	圓金妙良輝定尼		
左側面	生國長崎松五郎母				右側面 山出門 仁右衛門 母門	左側面 十月十七日	右側面 ?								
刻字		刻字													

年代の特定できない墓碑												西暦	
?	?	?	?	?	?	?	?	?	1823 1859	?	1689 1701	1688 1704	
?	?	?	?	?	?	?	?	?	文政(安政?)	元禄?	元禄?	和暦	
125号	120号	119号	117号	116号	114号	107号	106号	98号	96号	37号	158号	113号	41号
F区	E区	E区	E区	B区	D区	D区	C区	B区	A区	E区	D区	A区	B区
(上部不明)	D1	A1	A4	A1	B1?	B2	B4	B4	A2	D2	(下部欠損)	A4	B3
(高)(0.69) 幅0.41 厚0.28 0.18 0.14	高0.28 幅0.16 厚0.12	高0.66 幅0.24 厚0.13	高0.48 幅0.19 厚0.18	高0.51 幅0.24 厚0.19	高0.44 幅0.20 厚0.20	高0.30 幅0.14 厚1.10	高0.69 幅0.25 厚0.14	高0.52 幅0.14 厚0.18	高0.51 幅0.23 厚0.19	高(0.38) 幅0.26 厚0.14	高0.74 幅0.25 厚0.14	高0.70 幅0.25 厚0.12	墓標寸法
蓮華文			蓮華文			蓮華文		蓮華文				蓮華文	正面文様
女性	?	?	?	?	?	男性	男性	女性	女性	男性	?	女性	性別
成人	?	?	?	?	?	子供	子供	成人	成人	成人	?	成人	年齢
心法圓妙説禪定尼塔	(墨書不明)	(墨書不明)	(墨書不明)	十一月四日	心	幻泡(十一月)十助	心	幻夢童子位	心	帰	文政(安政?)	元禄?	墓碑(正面)
						卯年	卯年	卯年	卯年	未月八日	七月十二日	元禄(平成?)	墓碑(側面)
						春芳(十一月)七日	春芳(十一月)七日	春芳(十一月)七日	春芳(十一月)七日	春芳(十一月)七日	如岳(安政?)	元禄(平成?)	文字種
						日憲妙(十一月)七日	日憲妙(十一月)七日	日憲妙(十一月)七日	日憲妙(十一月)七日	日憲妙(十一月)七日	岳(安政?)	元禄(平成?)	刻字
						御川十助	御川十助	御川十助	御川十助	御川十助	来信女	元禄(平成?)	刻字
											五良(十之塔)	元禄(平成?)	刻字
											前井川治石門	元禄(平成?)	刻字
												元禄(平成?)	刻字
												元禄(平成?)	刻字





	西暦	西暦	西暦												
寛政 2	寛政 1	寛政 1	天明 7	天明 7	天明 6	天明 6	?	天明 4	天明 2	天明 1	安永 7	安永 6	安永 5	和暦	
44号	143号	123号	75号	137号	2号	152号	105号	3号	138号	57号	150号	144号	34号	墓石番号	地区
A区	E区	E区	D区	E区	A区	E区	A区	A区	E区	A区	E区	E区	A区	墓石形式	前面
	A1	A1	A2	A2	B4	A2	B2	B2	A2	A1	A1	A2	B1	墓標寸法	正面
高 (0.3) 幅 0.50 0.2 0.22 厚 0.14	高 0.50 幅 0.22 厚 0.15	高 0.50 幅 0.22 厚 0.22	高 0.33 幅 0.17 厚 0.13	高 0.47 幅 0.24 厚 0.20	高 0.35 幅 0.18 厚 0.13	高 0.50 幅 0.23 厚 0.19	高 0.53 幅 0.23 厚 0.19	高 0.36 幅 0.18 厚 0.14	高 0.52 幅 0.21 厚 0.12	高 0.51 幅 0.21 厚 0.14	高 0.48 幅 0.22 厚 0.17	高 0.49 幅 0.21 厚 0.17	高 0.48 幅 0.22 厚 0.17	正面文様	性別
上部人形像				30			29							正面文様	年齢
女性	男性	男性	男性	男性	男性	女性	女性	男性	女性	女性	女性	女性	女性	墓碑(正面)	墓碑(側面)
子供	成人	成人	成人	子供	成人	子供	成人	成人	子供	成人	成人	成人	成人	刻字	文字種
死	九月 寛政元年 月二日 行年才	心	眞	幸	心	柱峯壽延信女	空	光嚴不空信士	左側面	左側面	右側面	右側面	刻字	刻字	刻字
	九月九日 自休禪定門	未光天明七年 九月九日	天明七年 九月九日	天明七年 九月九日	天明七年 九月九日	天明七年 九月九日	天明七年 九月九日	天明五年 五月八日	天明四年 五月八日	天明四年 五月八日	天明四年 五月八日	天明四年 五月八日	天明四年 五月八日	墓碑(正面)	墓碑(側面)
		右側面 岩切彌助	左側面 千兵衛												
	刻字	刻字	刻字												





																西暦	和暦
	1749	1749	1749	1748	1748	1748	1748	1748	1747	1744	1744	1743	1741	1741	墓石番号	地区	
寛延2	寛延2	寛延2	寛延1	寛延1	寛延1	寛延1	寛延1	延享5	延享4	延享1	延享1	寛保3?	寛保1	寛保1	墓石番号	地区	
13号	145号	6号	102号	52号	108号	62号	28号	32号	146号	141号	81号	42号	11号	墓石番号	地区		
A区	E区	A区	A区	D区	B区	A区	B区	E区	E区	D区	A区	B区	A区	墓石形式	地区		
A1	B2	B2	A1	B1	B2	A1	B2	C1	B2	B1	B1	B1	B1	墓石寸法	正面文様		
23	22					21	34						19	墓石寸法	正面文様		
高 0.45 幅 0.51 厚 0.18 厚 0.11	高 0.53 幅 0.24 厚 0.20 厚 0.17	高 0.41 幅 0.20 厚 0.14	高 0.55 幅 0.20 厚 0.17	高 0.49 幅 0.22 厚 0.19	高 0.46 幅 0.21 厚 0.13	高 0.56 幅 0.20 厚 0.12	高 0.49 幅 0.20 厚 0.18	高 0.50 幅 0.22 厚 0.20	高 0.45 幅 0.17 厚 0.19	高 0.45 幅 0.17 厚 0.13	高 0.47 幅 0.19 厚 0.12	高 0.49 幅 0.18 厚 0.12		墓碑(正面)	墓碑(背面)		
	蓮華文	蓮華文			蓮華文	蓮華文		蓮華文	蓮華文	蓮華文	蓮華文	蓮華文		墓碑(正面)	墓碑(背面)		
男性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	性別	年齢								
子供	成人	成人	子供	成人	成人	子供	成人	成人	成人	成人	成人	子供	子供	墓碑(正面)	墓碑(背面)		
早世			心	心	心	心	心	心	早世	延享五年八月廿九日	延享四年八月廿九日	延享三年九月九日	延享元年九月九日	寛保元年四月十九日	寛保元年四月十九日		
十一月廿二日	正月廿九日	正月廿九日	正月廿九日	正月廿九日	正月廿九日	正月廿九日	正月廿九日	正月廿九日	正月廿九日	正月廿九日	正月廿九日	正月廿九日	正月廿九日	寛保元年四月十九日	寛保元年四月十九日		
	右側面	右側面	右側面	右側面	右側面	右側面	右側面	右側面	右側面	右側面	右側面	右側面	右側面	正面文様	文字種		
	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字		

西脇															
1741	1741	1740	1739?	1737?	1737	1737	1736	1735	1731	1729	1725	1725	1724	和曆	
寛保 1	寛保 1	元文 5	元文 4?	元文 2?	元文 2?	元文 2	享保 21	享保 20	享保 16	享保 14	享保 10	享保 9	享保 8	墓石番号	
82号	20号	38号	69号	50号	40号	9号	80号	112号	22号	49号	7号	55号	67号	地区	
D区	A区	A区	D区	A区	A区	D区	D区	A区	A区	A区	A区	A区	A区	墓石形式・図面	
A3	A1	B4	B2	A1	A1	B1	B4	B2	B3	B2	A2	A1	B1	墓標寸法	
	20				18			17		16				正面文様	
高 0.44 幅 0.17 厚 0.09	高 0.52 幅 0.21 厚 0.11	高 0.47 幅 0.22 厚 0.19	高 0.46 幅 0.23 厚 0.18	高 0.43 幅 0.18 厚 0.09	高 0.37 幅 0.17 厚 0.11	高 0.39 幅 0.16 厚 0.10	高 0.54 幅 0.21 厚 0.19	高 0.55 幅 0.23 厚 0.20	高 0.59 幅 0.22 厚 0.21	高 0.62 幅 0.27 厚 0.20	高 0.50 幅 0.23 厚 0.16	高 0.49 幅 0.23 厚 0.15	高 0.73 幅 0.31 厚 0.29	墓碑寸法	
		蓮華文					蓮華文			蓮華文				正面文様	
男性	男性	女性	男性	?	?	男性	男性	男性	男性	女性	女性	女性	女性	性別	
子供	子供	成人	成人	?	子供	子供	成人	成人	成人	成人	成人	成人	子供	年齢	
心	心	心	心	元空	心	心	心	心	圓	空	圓	心	心	墓碑 (正面)	
四種 月 寛保 童子 立塔	寛保 元年 十月 八日	元文 四年 十二月 十四日	元文 五年 正月 九日	元文 四年 六月 九日	元文 四年 五月 二十日	元文 四年 四月 二十日	妙花 童子 石	妙花 童子 石	善草 元文 二年 五月 二十日	享保 二十一年 六月 二十日	七壽 享保 十六年 七月 二十日	落葉 享保 十四年 九月 中日	妙心 心童女 六月 十六日	好山清 主同士 石塔 十月 十日	墓碑 (側面)
														墓碑 (側面)	
		右側面 善六子石		右側面 山出門 彦右衛門			右側面 前伊左衛門			左側面 重信寛之母助				右側面 押川才左衛門	墓碑 (側面)
刻字	刻字	刻字	刻字	墨書	刻字	文字種									

西脇															
1722	1722	1721	1721	1720	1719	1719	1719	1718	1714	1711	1710	1709	和暦		
享保 7	享保 7	享保 6	享保 6	享保 5	享保 4	享保 4	享保 4	享保 3	正徳 4	宝永 8	宝永 7	宝永 6	寶石番号		
47号	17号	16号	151号	58号	59号	56号	19号	136号	18号	21号	46号	24号	31号	地区	
A区	A区	A区	E区	A区	A区	A区	A区	A区	A区	A区	A区	A区	C区	墓石形式	
B <sub>1</sub> 2	A <sub>1</sub>	A <sub>2</sub>	B <sub>1</sub> 4	A <sub>1</sub>	A <sub>1</sub>	A <sub>1</sub>	(上部欠損) 不明	(下部欠損) 有	A <sub>1</sub> 2	A <sub>1</sub> 1	A <sub>1</sub> 2	A <sub>1</sub> 3	A <sub>1</sub> 3	因面	
15	14					13		12	11		10	37		墓標寸法	
高 幅 0.54 0.51 0.21 0.16	高 幅 0.64 0.60 0.26 0.22 厚 0.18	高 幅 0.64 0.60 0.28 0.26 厚 0.21	高 幅 0.55 0.55 0.22 0.24 厚 0.16	高 幅 0.68 0.64 0.25 0.25 厚 0.19	高 幅 0.55 0.55 0.25 0.25 厚 0.14	高 幅 0.42 0.42 0.22 0.22 厚 0.19	高 幅 0.74 0.74 0.30 0.30 厚 0.20	高 幅 0.55 0.55 0.23 0.23 厚 0.16	高 幅 0.74 0.74 0.30 0.30 厚 0.24				正面文様	性別	
蓮華文	蓮華文	蓮華文	蓮華文							蓮華文				年齢	
男性	女性	男性	女性	女性?						男性	女性	女性	女性	年齢	
成人	子供	成人	成人	成人	成人	成人	子供	子供	成人	成人	子供	成人	成人	年齢	
心	早雲	心	心	圓	心	心	早世	心	心	心	心	心	心	墓碑(正面)	
九月清秋保七 月十二日石塔	享保七年 九月廿九日 草堂	享保六年 五月十八日 草堂	享保六年 八月廿八日 草堂	享保五年 八月廿八日 安神定尼石塔	享保四年 正月八日 草堂	享保四年 正月十五日 草堂	享保四年 十月十五日 草堂	享保四年 十月十五日 草堂	享保四年 十月十五日 草堂	正徳四年 三月廿二日 幻華童子	正徳四年 三月十二日 雪雲妙雲僧女	正徳四年 三月廿二日 梅室妙心神定尼塔	正徳四年 三月廿二日 香山妙心人師	宝永六年 六月九日 宝永八年 十一月十五日 宝永七年 六月九日	正面(正面)
	右側面		右側面		左側面		左側面			右側面	右側面	右側面	右側面	右側面	
	六左衛門		前孝左衛門		高麗町 右衛門		共助之助			久衛門母石	久衛門母石	久衛門母石	久衛門母石	久衛門母石	右側面
刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	墨書	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	刻字	文字種	

表 3 墓標觀察表

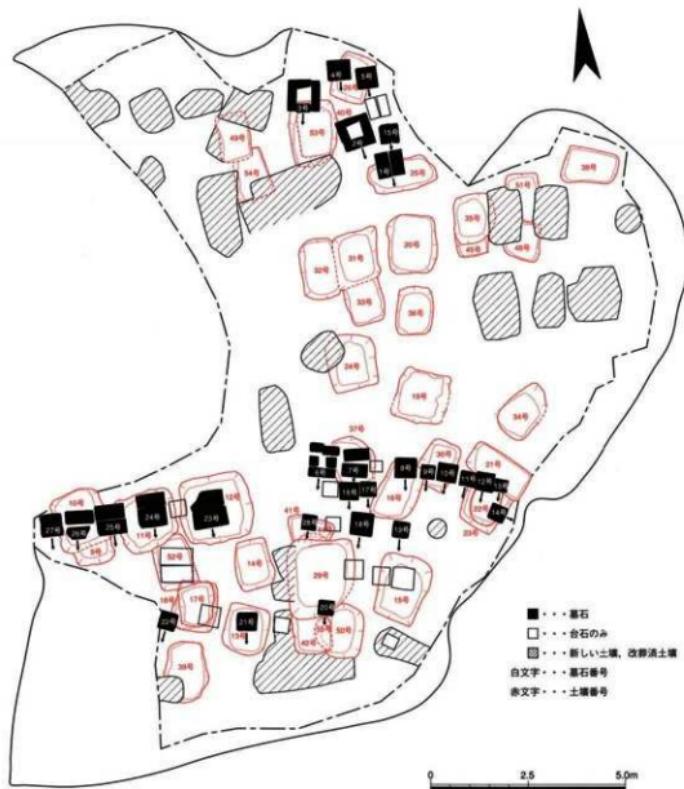
西脇														墓石番号	墓碑寸法	墓碑(正面)	墓碑(側面)	文字種	
1709	1708	1708	1706	1705	1701	1699	1697	1696	1692	1688	1685	1671	1668						
宝永6 23号	宝永5 8号	宝永5 111号	宝永5 66号	宝永3 14号	宝永2 30号	元禄14 33号	元禄12 29号	元禄10 12号	元禄9 95号	元禄5 131号	貞享5 133号	貞享2 129号	寛文11 126号	寛文8 墓石番号	和暦	墓標形式	墓碑寸法	正面文様	
A区 E2 9 高0.75 幅0.69 厚0.28 0.27	A区 A2 8 高0.69 幅0.58 厚0.24 0.23	D区 B1 7 高0.69 幅0.48 厚0.28 0.21	A区 A4 高0.69 幅0.48 厚0.28 0.20	C区 A3 高0.58 幅0.48 厚0.28 0.20	C区 B1 高0.58 幅0.48 厚0.28 0.21	(上部欠損) 不明 7 高0.48 幅0.30 厚0.21	B区 B3 (下部欠起有) 高0.48 幅0.30 厚0.21	B区 B3 (下部欠起有) (0.50) 高0.48 幅0.30 厚0.22	B区 B3 高0.48 幅0.24 厚0.15	B区 A? 高0.47 幅0.24 厚0.13	F区 A1 高0.67 幅0.24 厚0.18	F区 A1 高0.63 幅0.21 厚0.14	F区 B3 高0.58 幅0.23 厚0.16	F区 B3 高0.62 幅0.30 厚0.18	F区 B3 高0.68 幅0.30 厚0.19	墓区	墓碑形式	圓面	正面文様
蓮華文 男性 成人 心 六月十六日居士	蓮華文 女性 成人 子供 心 七月廿二日居士	蓮華文 女性 成人 子供 心 子智妙院等	蓮華文 男性 成人 成人 心 宝永五年正月七日	蓮華文 男性 成人 成人 心 宝永五年正月七日	蓮華文 男性 成人 成人 心 元禄十四年正月廿一日	蓮華文 男性 成人 成人 心 元禄十四年正月廿一日	蓮華文 男性 成人 成人 心 元禄十五年正月廿七日	蓮華文 女性 成人 成人 心 元禄十五年正月廿七日	蓮華文 女性 成人 成人 心 元禄十五年正月廿七日	蓮華文 女性 成人 成人 心 元禄十五年正月廿七日	蓮華文 女性 成人 成人 心 元禄十五年正月廿七日	蓮華文 女性 成人 成人 心 元禄十五年正月廿七日	蓮華文 女性 成人 成人 心 元禄十五年正月廿七日	蓮華文 女性 成人 成人 心 元禄十五年正月廿七日	性別 年齢	墓碑(正面)	正面文様		
刻字 右側面 前七衛門	刻字 右側面 押川治衛門妻	刻字 右側面 香木童子	刻字 右側面 梅園草女之塚	刻字 右側面 香木童子	刻字 右側面 梅園草女之塚	刻字 左側面 重信大左衛門	刻字 左側面 重信大左衛門	刻字 左側面 重信大左衛門	刻字 左側面 重信大左衛門	刻字 左側面 重信大左衛門	刻字 左側面 重信大左衛門	刻字 左側面 重信大左衛門	刻字 左側面 重信大左衛門	刻字 左側面 重信大左衛門	刻字 左側面 重信大左衛門	刻字 左側面 重信大左衛門	刻字 左側面 重信大左衛門		

### 第3節 土壌の調査

八反田・川子地区墓地群で検出された土壌は、55基である。地区別に見ると、A区42基、B区3基、C区5基、D区2基、E区3基である。

#### 1 A区の土壌

標高約40mに位置し、墓域の中で、最も広い面積を有する地区である。表土を除去すると、岩盤や岩盤がブロック状に混じった土壌が現れ、土壌はそこから検出された。A区南側は造成土のような黒色土が堆積している。墓地造成時に平坦にしたものか。土壌は、42基が検出されたが、墓石との対応が確認できる土壌はない。



第36図 A区墓石・土壌配置図

### 9・10号土壤

A区西端で検出された。9号土壤が10号土壤に切られる。

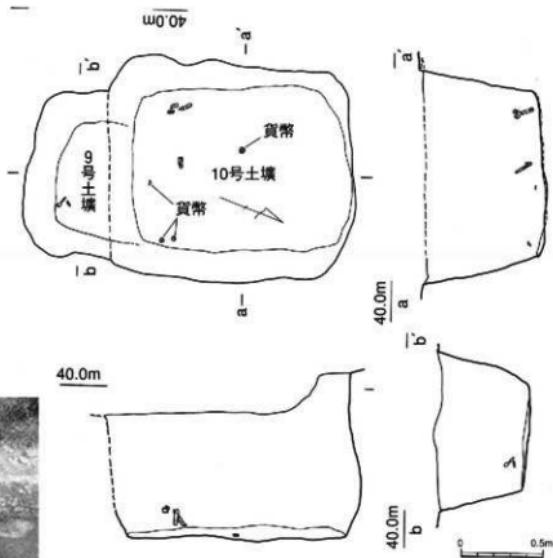
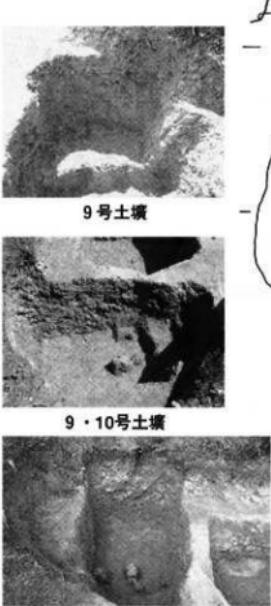
9号土壤の形状は、北側が残っていないが、隅丸長方形の可能性が高い。残深は0.61m。N-9°-Wを主軸とする。人骨が床面上10cmの高さで出土している。副葬品の出土はない。

10号土壤は、長軸約1.5m短軸1.39mの隅丸長方形で、土壤の残深は1.04mを測る。N-21°-Wを主軸とする。人骨は、床面5cmの高さで出土。遺物は貨幣が9枚出土。1~6は床直上からセットで出土し副葬品と思われる。すべて寛永通寶である。7~9は約20cm上面から出土し、破片であるため、混入と考えられる。このほか、鉄釘が出土している。

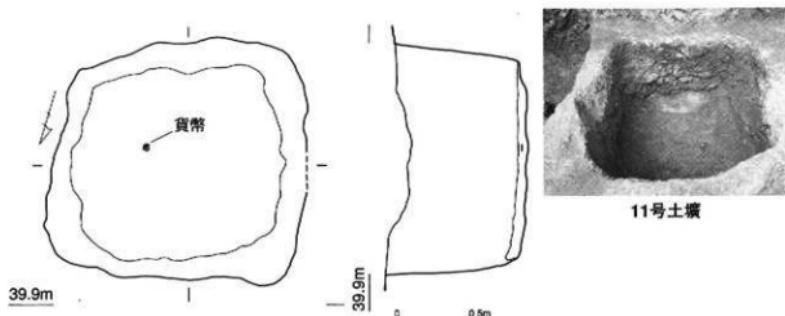


第40図 10号土壤出土貨幣実測図 (2/3) 計9枚 8・9は破片

1 新寛永錢	2 新寛永錢	3 寛永通寶 背文「文」	4 新寛永錢
5 寛永通寶 背文「文」	6 寛永通寶 背文「文」	7 寛永通寶 背文「文」	
		8 古寛永錢	9 新寛永錢



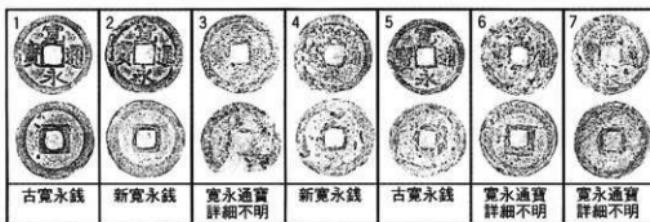
第39図 9・10号土壤実測図 (1/30)



第41図 11号土壤実測図 (1/30)



第42図 11号土壌出土貨幣実測図及び拓影図 (2/3) 計7枚

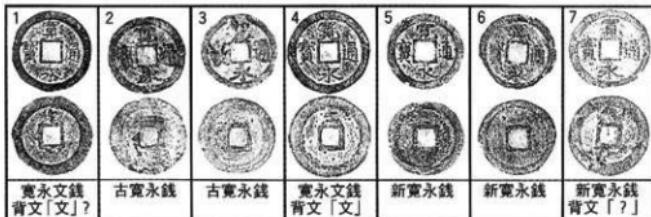
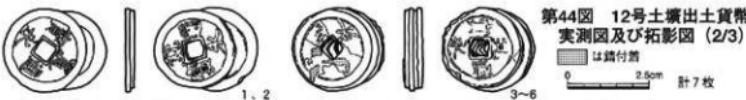


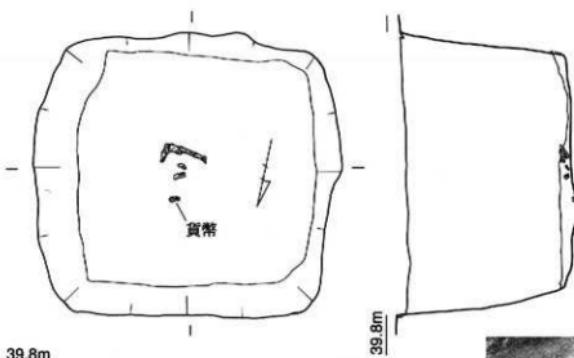
11号土壌

10号土壌の東隣で検出され、南側の52号土壌を切る。土壌の形状は、長軸1.6m短軸1.5mの隅丸方形で、残深は0.88mを測る。N-70°-Eを主軸とする。人骨は出土していない。遺物は、床直上で貨幣7枚がセットで出土した。すべて寛永通寶である。

12号土壌

11号土壌の東隣で検出された。土壌の形状は、長軸1.88m短軸1.75mの隅丸方形で、残深1.11mを測る。



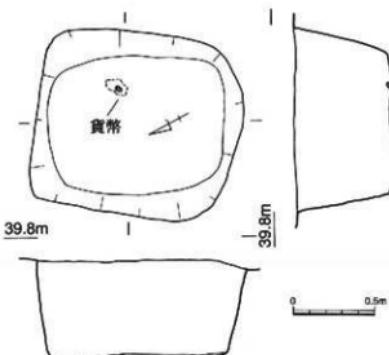


N-78°-Eを主軸とする。土壙の中央、床面直上で人骨が出土した。遺物は、人骨の北側で貨幣が7枚セットで出土した。すべて寛永通寶である。貨幣の下部で木片が出土した。

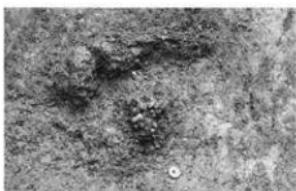
第43図 12号土壙 実測図 (1/30)

#### 13号土壙

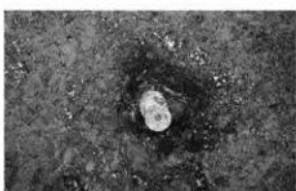
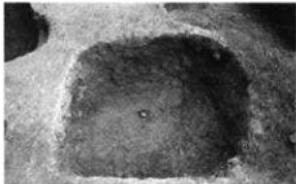
A区の南寄りで検出された。土壙の形状は、長軸1.32m短軸1.18mの隅丸長方形で、残深は0.63mを測る。N-28°-Eを主軸とする。床面から貨幣が7枚セットで出土した。1は開元通寶、2~7は寛永通寶である。また、貨幣の周りで、黒色の炭化物様のものが出土している。人骨かどうかは、不明である。(第IV章第1節参照)



第45図 13号土壙実測図 (1/30)



12号土壙



13号土壙

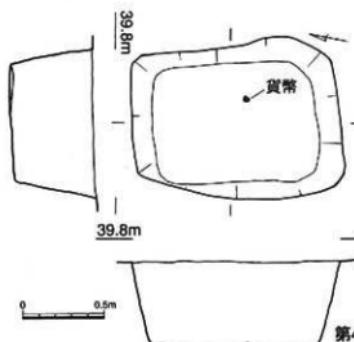
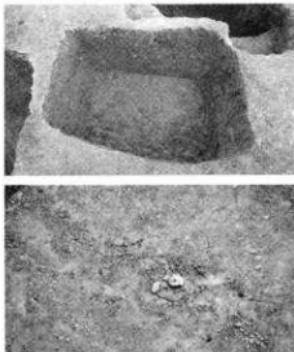


第46図 13号土壙出土貨幣実測図  
及び拓影図 (2/3) 計7枚

開元通寶	寛永文錢 背文「文」	新寛永錢	新寛永錢	寛永文錢 背文「文」	古寛永錢	古寛永錢

#### 14号土壙

12号土壙と13号土壙の間で検出された。土壙の形状は、長軸1.29m短軸0.99mの隅丸長方形で、残深は0.53mを測る。N-10.5°-Wを主軸とする。人骨の出土ではなく、床面直上で貨幣3枚が出土した。すべて寛永通寶である。



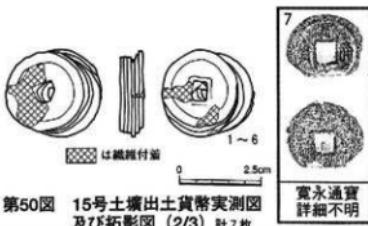
第47図 14号土壙実測図 (1/30)

第48図 14号土壙  
出土貨幣拓影図  
(2/3) 計3枚

古寛永錢	古寛永錢	寛永通寶 詳細不明

#### 15号土壙

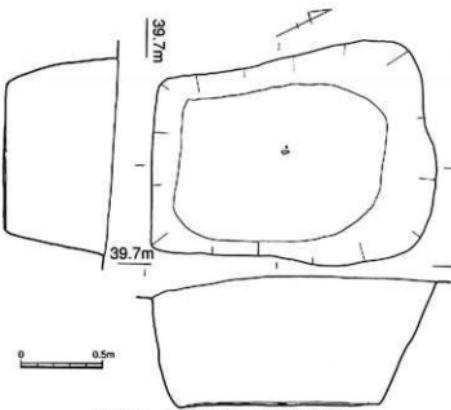
A区南東で検出された。土壙は、長軸1.72m短軸1.37mの隅丸長方形で、残深は0.8mを測る。主軸はN-26.5°-E方向。土壙の中央、床面直上で人骨と貨幣が出土した。7枚セットで、1枚は剥落したが、残りの6枚は繊維が付着していたため、密着した状態で保存処理を施した。



第50図 15号土壙出土貨幣実測図  
及び拓影図 (2/3) 計7枚



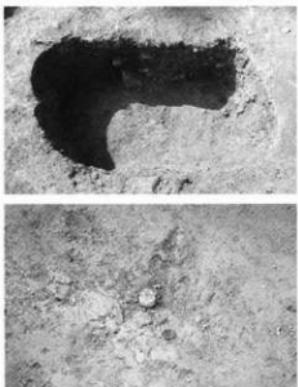
15号土壤



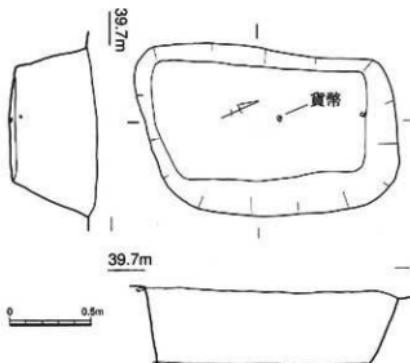
第49図 15号土壤実測図 (1/30)

#### 16号土壤

15号土壤の北側で検出された。東隣に位置する。30号土壤を切る。土壤の形状は、長軸1.59m短軸1.07mの隅丸長方形で、残深は0.53mを測る。土壤の主軸は、N-24°-Eである。土壤北端、床面3cmのところで、人骨が発見され、土壤中央、床面直上で7枚セットの貨幣が出土。纏綿が付着していたため、密着した状態で、保存処理を施した。



16号土壤



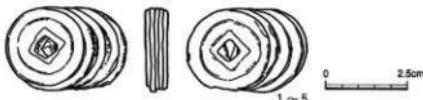
第51図 16号土壤実測図 (1/30)



第52図 16号土壤出土貨幣実測図 (2/3) 計7枚



第53図 17号土壤実測図 (1/30)

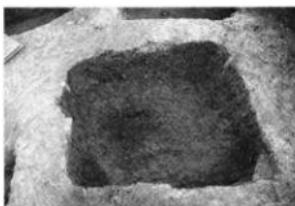


1 新寛永銭	2 寛永文銭 背文「文」	3 古寛永銭	4 古寛永銭
5 古寛永銭	6 寛永文銭 背文「文」	7 寛永文銭 背文「文」	古寛永銭
古寛永銭	寛永文銭 背文「文」	寛永文銭 背文「文」	寛永文銭 背文「文」

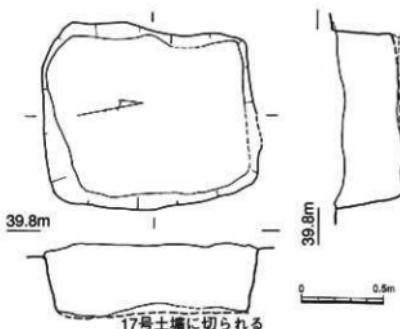
第54図 17号土壤出土  
貨幣実測図及び  
拓影図 (2/3) 計7枚

### 17号土壤

13号土壤の西隣で検出された。18号土壤、52号土壤を切る。検出時は、18号土壤と区別が付かず、床面付近のみ、形状が確認された。残存長軸1.2m短軸0.94mで、残深は0.55mを測る。N-6.5°-Wに主軸をとる。床面北側で、人骨が腐食したような跡が確認された。床面直上で、貨幣が7枚セットで出土した。すべて寛永通寶である。



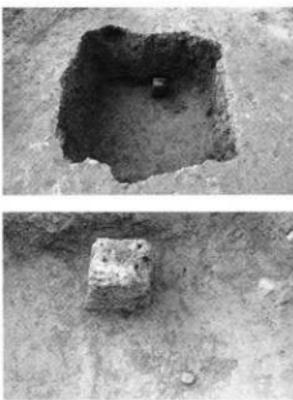
17・18号土壤



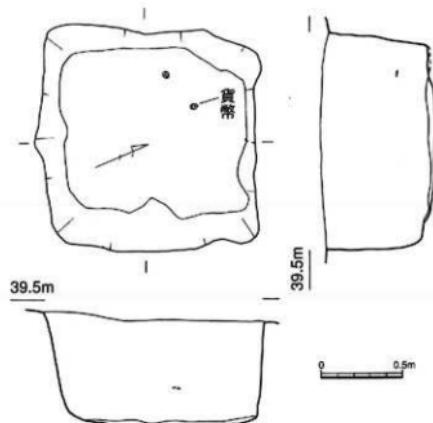
第55図 18号土壤実測図 (1/30)

### 18号土壤

17号土壤とほぼ重なって検出された。17号土壤に切られ、52号土壤を切る。土壤の形状は、長軸1.34m短軸1.14mの隅丸長方形で、残深は、0.44mを測る。土壤の主軸は、N-11°-Eである。遺物の出土はない。



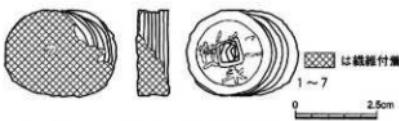
19号土壤



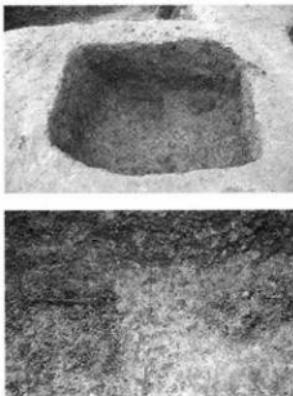
第56図 19号土壤実測図 (1/30)

19号土壤

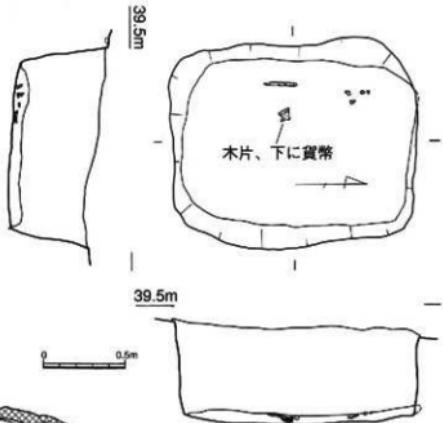
A区中央で検出された。土壤は、長軸1.38m短軸1.39mの隅丸方形で、残深0.7mである。床面から約20cmの高さで、人骨が発見された。床面直上から貨幣7枚が繊維に覆われた状態で出土した。密着した状態で保存処理を施した。



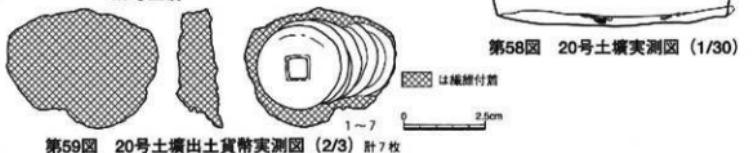
第57図 19号土壤出土貨幣実測図 (2/3) 計7枚



20号土壤



第58図 20号土壤実測図 (1/30)



第59図 20号土壤出土貨幣実測図 (2/3) 計7枚

## 20号土壤

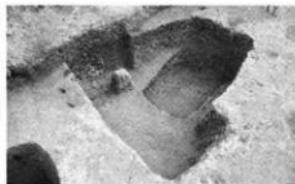
A区北側で検出された。土壤は、長軸1.52m短軸1.28mの隅丸長方形で、残深0.65mを測る。主軸は、磁北をとる。床面直上で人骨及び木片が出土した。木片の下から、貨幣が7枚セットで出土した。貨幣は機縫に覆われていたため、そのままの状態で保存処理を施した。



第61図 21号土壤出土貨幣  
実測図及び拓影図 (2/3)



21号土壤



21, 22, 23号土壤

## 21・22・23号土壤

A区南東で切り合って検出された。古い順に21号土壤、22号土壤、23号土壤である。

21号土壤の形状は、長軸1.67m短軸0.85mの隅丸長方形を呈し、残深0.58mである。主軸は、N-49°-Wをとる。貨幣が7枚出土した。1~5は寛永通寶、4~5は詳細不明である。6~7は鐵銭で詳細不明。他に鐵釘が出土している。

22号土壤の形状は、長軸1.24m短軸0.76mの隅丸長方形を呈し、残深0.22mを測る。主軸は、N-25°-Eをとる。人骨や遺物の出土はない。

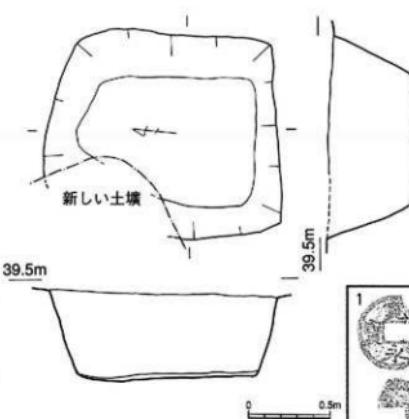
23号土壤の形状は、長軸1.21m+a、短軸1.25mの隅丸長方形と考えられ、主軸は、N-34°-Eをとる。人骨や遺物の出土はない。



24号土壙

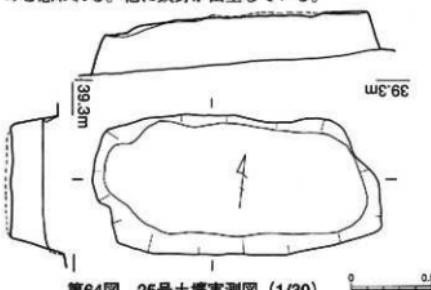
24号土壙

A区中央で検出された。土壙北西部を新しい土壙に切られる。24号土壙の形状は、長軸1.45m短軸1.28mの隅丸長方形で、残深0.56mを測る。N-6°-Eに主軸をとる。人骨の出土はなく、土壙東側上面で、貨幣破片が1枚出土した。埋土に混入していたものと思われる。他に鉄釘が出土している。

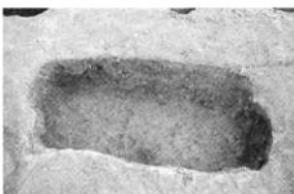


第62図 24号土壙実測図 (1/30)

第63図 24号土壙出土  
貨幣拓影図 (2/3) 計一枚

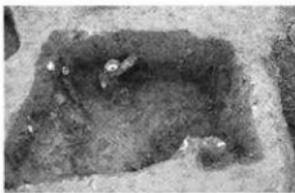


第64図 25号土壙実測図 (1/30)



25号土壙

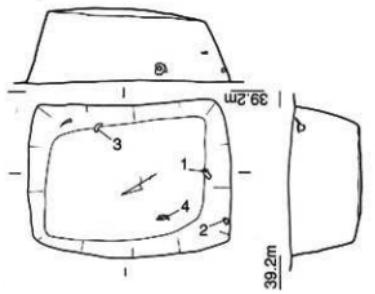
A区北側で検出された。土壙の形状は長軸1.75m短軸0.86mでの隅丸長方形である。残深は0.39mを測る。主軸の向きは、N-85.5°-Eである。人骨や遺物の出土はない。



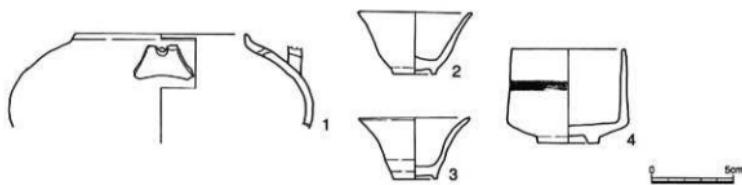
26号土壙

26号土壙

A区北端で検出された。土壙は、長軸1.23m短軸0.96mの隅丸長方形で、残深0.45mを測る。主軸の向きは、N-30.5°-Eである。人骨の出土はない。

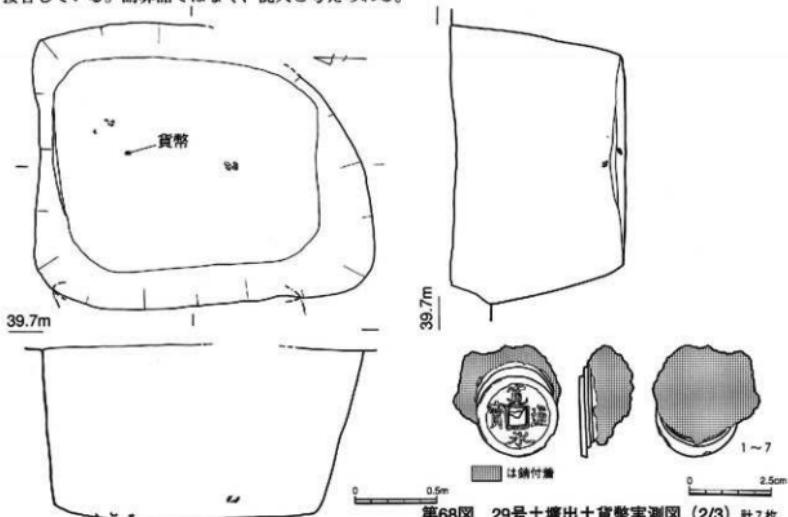


第65図 26号土壙実測図 (1/30)



第66図 26号土壤出土遺物実測図 (1/3)

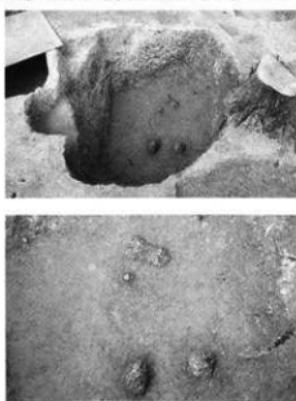
陶磁器5点が出土した(第66図・表4)。いずれも、土壤上位で出土しており、1・3は、表土遺物と接合している。副葬品ではなく、混入と考えられる。



第67図 29号土壤実測図 (1/30)

#### 29号土壤

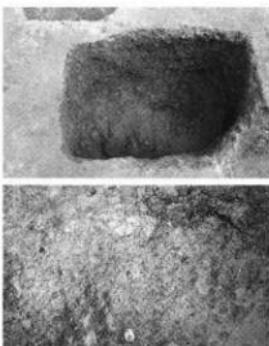
A区南側、14号土壤と15号土壤の間で検出された。北側の41号土壤、44号土壤、南側の42号土壤、50号土壤を切る。土壤の形状は、長軸2.07m短軸1.75mの隅丸長方形で、深さは1.07mを測る。土壤の主軸はN-1°-Wをとる。床面直上と約10cm上位で人骨が発見された。床面直上で、貨幣が7枚のセットで出土した。貨幣は、鉄銷が付着し、分解困難であったため、そのままの状態で、保存している。このほかに、鉄釘が出土している。



29号土壤

### 30号土壤

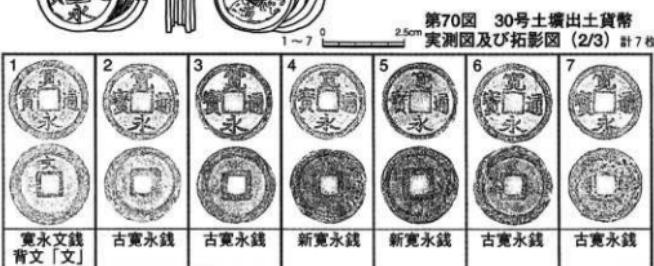
A区東側で、16号土壤に切られた状態で検出された。土壤の形状は、長軸1.3m短軸0.98mの隅丸長方形で、残深0.64mを測る。主軸をN-23.5°-Eにとる。土壤の中央、床面直上から人骨が発見された。土壤西側では、貨幣が7枚のセットで出土し、すべて寛永通寶である。



30号土壤



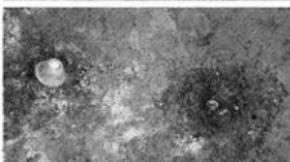
第69図 30号土壤実測図 (1/30)



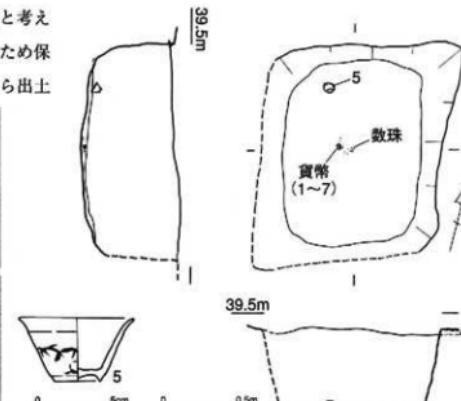
### 31号土壤

20号土壤の西側で検出された。32号土壤、33号土壤を切る。土壤は、長軸1.4m短軸1.29mの隅丸長方形を呈し、残深0.58mを測る。主軸は、N-14.5°-W。人骨は発見されない。貨幣19枚が出土した。

1~7は床面直上で出土し、副葬品と考えられる。1~6は纖維が付着していたため保存処理を施した。8~19は、土壤脇から出土



31号土壤



第72図 31号土壤出土遺物実測図 (1/3)

第71図 31号土壤実測図 (1/30)



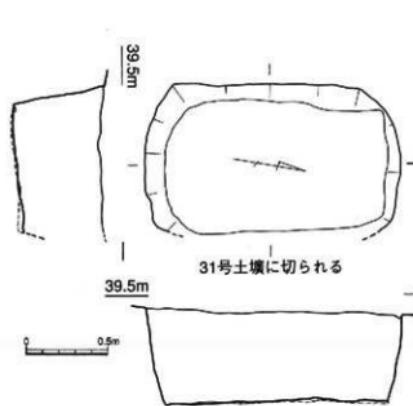
第73図 31号土壤出土  
遺物実測図 (2/3)

し、混入品と考  
えられる。陶磁  
器（第72図・表  
5）1点と、數  
珠玉（第73図・  
表5）37点が床  
面直上で出土し  
た。数珠玉はほ  
ぼ同様のため、  
1点のみ図化し  
た。このほか、  
鉄釘が出土して  
いる。



第74図 31号土壤出土貨幣実測図及び拓影図 (2/3) 計19枚

7	8	9	10	11	12	13
新寛永錢	古寛永錢	寛永通寶 詳細不明	新寛永錢	新寛永錢	新寛永錢	新寛永錢
14	15	16	17	18	19	
新寛永錢	新寛永錢	寛永通寶 詳細不明	新寛永錢 背文「？」	新寛永錢	新寛永錢	



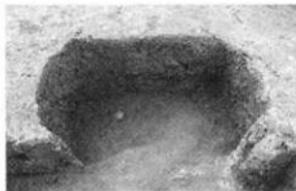
第75図 32号土壤実測図 (1/30)

### 32号土壤

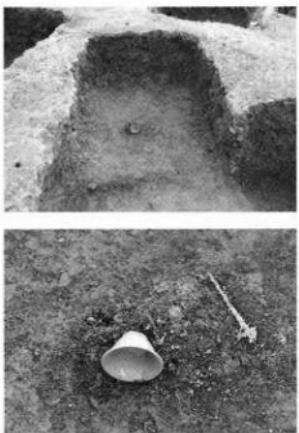
31号土壤の西側に位置し、同土壤に切られる。土壤の形状は、長軸1.55m短軸0.95mの隅丸長方形を呈し、残深0.6mを測る。土壤の主軸は、N-10°-Wである。人骨や遺物の出土はなかった。



31・32・33号土壤



32号土壤

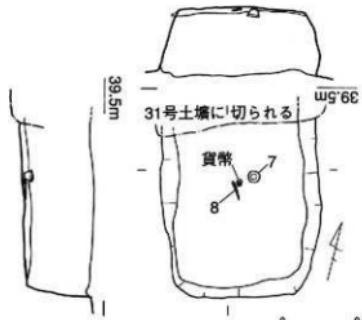


33号土壤

### 33号土壤

31号土壤の南側に位置し、同土壤に切られる。土壤の形状は、長軸1.1m短軸0.98mの隅丸長方形を呈する。残深0.44m。主軸は、N-14°-Wである。人骨は発見されず、土壤中央床面直上で、

陶器1点と銅製簪1点（第77図・表5）、貨幣が7枚セットで出土した。貨幣は繊維が付着していたため、そのままの状態で保存処理を施した。他に鉄釘出土。

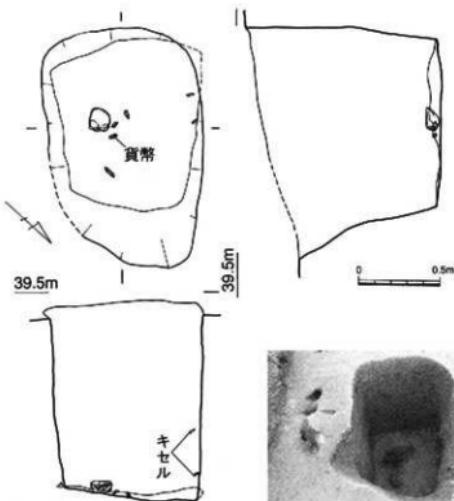


第76図 33号土壤実測図 (1/30)



第77図 33号土壤出土貨幣実測図 1～7  
計7枚

第77図 33号土壤出土遺物実測図



第79図 34号土壤実測図 (1/30)

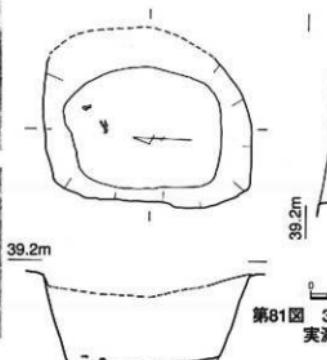
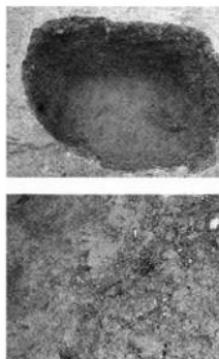
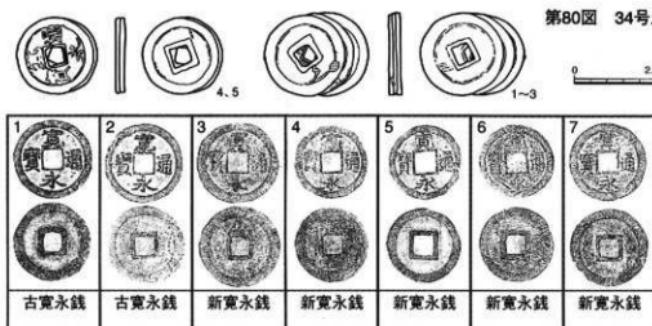
### 34号土壤

A区東側で検出。土壤は、長軸1.46m短軸0.99mの隅丸長方形を呈し、残深1.25mを測る。主軸はN-47°-W。土壤中央、床面直上で人骨が発見された。頭骨は、右耳が西、左耳が東、顔面が下に向いていた。頭骨の北側で、貨幣が7枚のセットで出土した。すべて寛永通寶である。櫛に刺さった状態のキセルが出土したが、土壤には伴わない。



34号土壤

第80図 34号土壌出土貨幣実測図  
及び拓影図 (2/3)  
計7枚

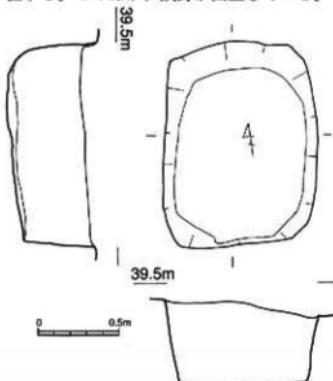


35号土壌

20号土壌の東隣で検出された。北側の45号土壌を切り、新しい土壌に切られる。土壌の形状は、長軸1.26m短軸1.1mの隅丸長方形で、残深0.55mを測る。N-1°-Wを主軸とする。人歯が土壌北側、床面直上で発見された。

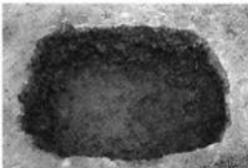
第81図 35号土壌  
実測図 (1/30)

左側の上歯と下歯が配列した状態で出土した。上歯が北側に、下歯が南側に位置し、前歯が西側に位置する。このほか、鉄釘が出土している。



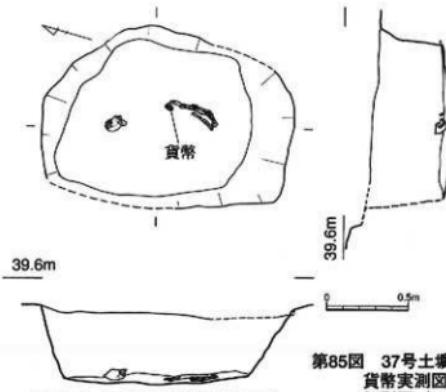
36号土壌

A区中央で検出された。土壌の形状は、長軸1.26m短軸0.95mの隅丸長方形で、残深0.55mを測る。土壌の主軸は、N-9°-Eである。人骨や遺物の出土はなかった。



第82図 36号土壌実測図 (1/30)

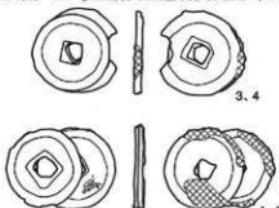
36号土壌



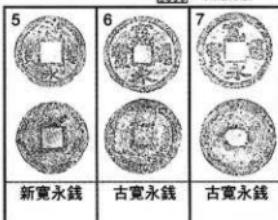
第83図 37号土壤実測図 (1/30)



第84図 37号土壤出土遺物実測図 (2/3)

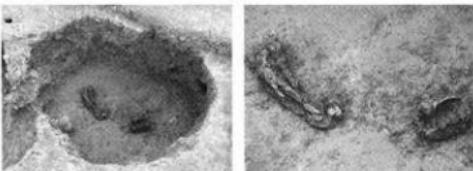


第85図 37号土壤出土  
貨幣実測図及び  
拓影図 (2/3)  
計8枚 8は破片



### 37号土壤

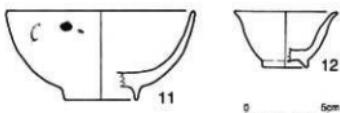
16号土壤の西隣で検出された。土壤の形状は、長軸1.54m短軸1.12mで残深0.49mである。N-15°-Wに主軸をとる。床面直上で、人骨が発見された。北側に頭骨、南側に大腿骨が北に位置する。大腿骨の北に8枚セットの貨幣が出土した。出土貨幣のうち、1・2と3・4は繊維が付着していたため、そのままの状態で保存処理を施した。5～7は寛永通寶、8は破片のため詳細は不明。さらに貨幣とともに、2個体が連なった数珠玉(9)と、銀色の物質(10)が出土し、貨幣がきらきらとラメをまぶしたような状態になっていた。分析の結果、この物質は、鉱物片の可能性指摘される。他に鉄釘出土。



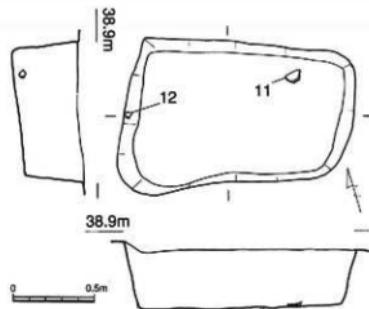
37号土壤



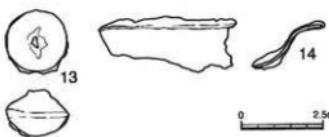
38号土壤



第86図 38号土壤出土遺物実測図 (1/3)



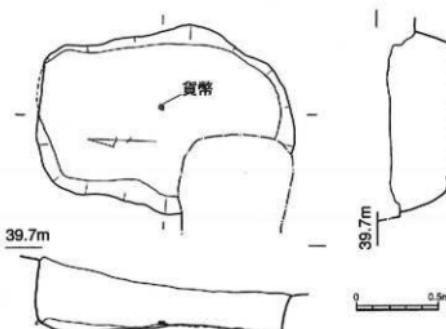
第87図 38号土壤実測図 (1/30)



第88図 38号土壤出土遺物実測図 (2/3)

### 38号土壤

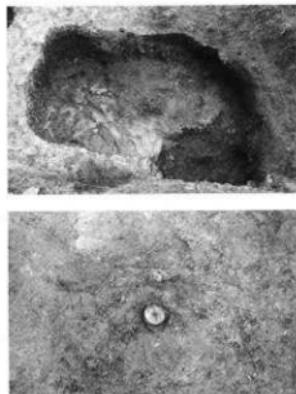
A区北東端で検出された。土壤は、長軸1.45m短軸0.95mの隅丸長方形を呈し、残深0.41mを測る。N-76°-Wが主軸である。陶磁器片が2点出土し、11は床面から約5cm上位で、12は土壤上面で確認された。このほか金属製品が2点出土した。13は鈴、14は容器片である。遺物は、土壤に伴うものか不明である。



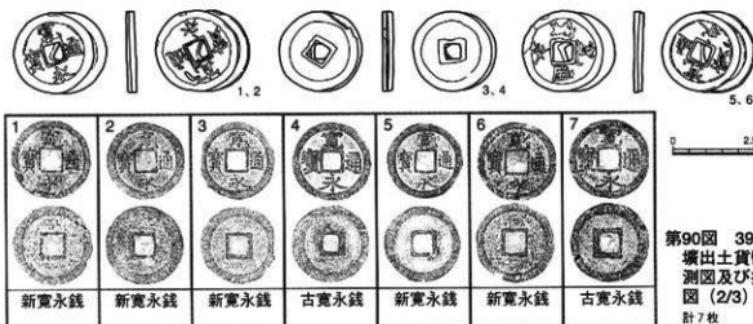
第89図 39号土壤実測図 (1/30)

### 39号土壤

A区南端で検出された。土壤の形状は、長軸1.57m短軸1.15mの隅丸長方形で、残深0.45mである。主軸をN-2.5°-Wとする。貨幣が7枚セットで出土した。1~7は寛永通寶である。



### 39号土壤



第90図 39号土壤出土貨幣実測図及び拓影図 (2/3)  
計7枚